

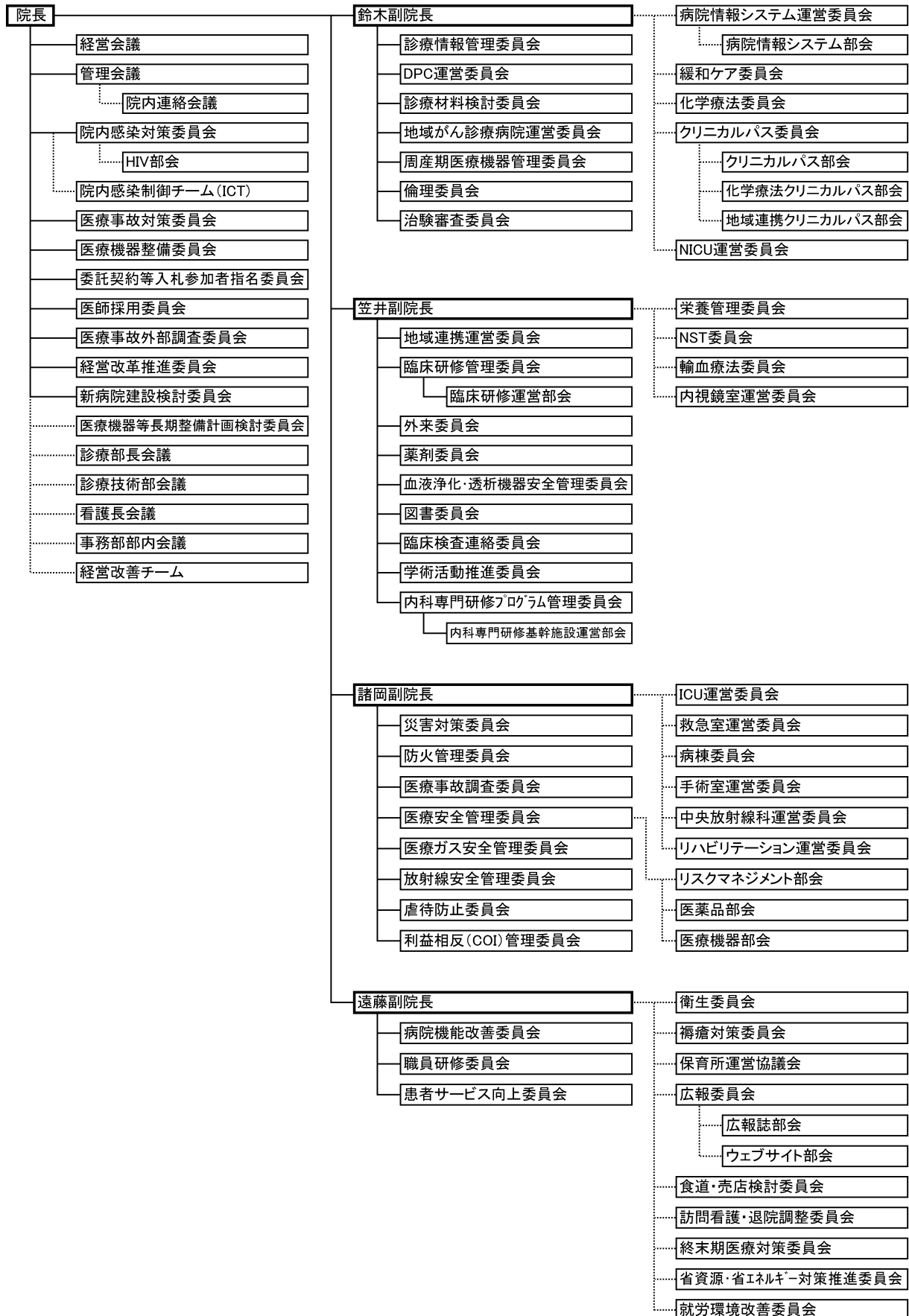
17 院内各種委員会等の活動実績

各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
130	衛生委員会	169	診療材料検討委員会
131	保育所運営協議会	170	I C U運営委員会
132	D P C運営委員会	172	医療事故調査委員会
134	職員研修委員会	173	医療事故対策委員会
135	図書委員会	174	病院情報システム運営委員会
136	診療情報管理委員会	175	血液浄化・透析機器安全管理委員会
137	医療機器整備委員会	177	周産期医療機器管理委員会
138	手術室運営委員会	178	地域連携運営委員会
140	薬剤委員会	179	患者サービス向上委員会
141	医療ガス安全管理委員会	181	学術活動推進委員会
143	臨床研修管理委員会	182	病棟委員会
145	院内感染対策委員会	183	就労環境改善委員会
146	倫理委員会	184	外来委員会
147	訪問看護退院調整委員会	186	放射線安全管理委員会
148	栄養管理委員会	188	災害対策委員会
149	中央放射線科運営委員会	190	防火管理委員会
150	臨床検査連絡委員会	191	虐待防止委員会
151	救急室運営委員会	192	臨床研修センター
152	内視鏡室運営委員会	193	富士市透析防災ネットワーク
153	褥瘡対策委員会	194	利益相反（C O I）委員会
155	クリニカルパス委員会	195	N I C U運営委員会
157	病院機能改善委員会	196	地域がん診療病院運営委員会
159	N S T委員会	197	リハビリテーション運営委員会
161	輸血療法委員会	198	医療機器等長期整備計画検討委員会
162	医療安全管理委員会	199	新病院建設検討委員会
164	緩和ケア委員会	200	経営改善チーム
165	広報委員会	201	医療機器等導入機種選定委員会
166	食堂・売店検討委員会		省資源・省エネルギー対策推進委員会
167	経営改革推進委員会	202	終末期医療対策委員会
168	化学療法委員会		内科専門研修プログラム管理委員会

委員会・各種会議 組織図

(平成29年4月1日現在)



■衛生委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
副委員長	千葉 博胤（小児科）	委員	市原 恒平（外科）
委員	小林 正典（薬剤科）	委員	後藤 理沙（臨床検査科）
委員	井出 敦之（中央放射線科）	委員	小田 純市（リハビリテーション科）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	山田 順一（外来C）
委員	倉島 志保（4A病棟）	委員	鈴木 春美（5B病棟）
委員	越智 悦子（3B病棟）	委員	深澤 公保（病院総務課）
委員	角入 あゆ美（病院経営課）	委員	島田 英介（医事課）
事務局	井出 大介（病院総務課）		

概要

労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

2 開催回数

1回／月

3 平成29年度の取組実績

(1) 定期健康診断の実施

（一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断など）

(2) ワクチン接種

（インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診）

（MR ワクチン接種）

(3) 安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）

(4) 病棟職場巡視

4 来年度の課題

(1) 健康診断の受診率100%を目指し、職員への周知を図るとともに、要受診者等に対するフォローを徹底する

(2) 公務災害・労働災害件数を減らす

(3) 職場巡視を行い職員の安全・安心を守る

(4) 病院敷地内含む禁煙の検討

（文責 木村 哲夫）

■保育所運営協議会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	杉沢 利次（事務部長）	副会長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
会員	渡辺 利英（病院総務課）	会員	井出 敦之（職員組合）
会員	梶 亜純（父母代表）	会員	内藤 榮一（緑が丘保育園園長）
会員	佐藤 恵津子（保育所）	事務局	加藤 菜緒（病院総務課）

2 開催回数

1回

3 平成 29 年度の取組実績

仕事と育児の両立ができる働きやすい職場環境整備の一環として、院内保育所の役割を協議するため、平成 29 年 8 月 7 日（月）に保育所運営協議会を開催した。

おもに以下の項目について協議を行い、運営要領を改訂した。

【慣らし保育の実施について】

職員からの要望により、入所前に慣らし保育を実施することを決定した。

これにより入所児の柔軟な保育所生活への移行をサポートし、保護者職員が安心して仕事に専念できる環境づくりに寄与することができた。

<平成 29 年度 慣らし保育の利用実績>

- ・年齢別利用状況

0 歳児… 4 名、1 歳児… 2 名、2 歳児… 2 名

- ・平均利用日数

4.1 日

- ・1 日あたりの平均利用時間

3.5 時間

4 来年度の課題

職員の生活環境の変化や保育所へのニーズに対応した院内保育所を運営するため、職員・利用者・保育所間の情報共有を緊密にし、新たな取り組みや運営改善について適時検討を行い、利用者の拡充を目指す。

近隣の院内保育所や市内保育園の運営状況を踏まえつつ、既存の利用者からの意見を大切にして、より良い保育環境の構築を目指す。

（文責 大沼 幹雄）

■ D P C 運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	道躰 隆行 (外科)	委員	山本 純子 (臨床検査科)
委員	渡邊 浩臣 (薬剤科)	委員	齋藤 正美 (6 B 病棟)
委員	玉舟 正弥 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
事務局	寺田 和子 (医事課)	事務局	島田 英介 (医事課)
事務局	川本 悦子 (医事課)		

2 開催回数

12 回 (毎月 1 回、第 4 木曜日)

3 平成 29 年度の取組実績

DPC 運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC 症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPC や診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度は平成 30 年度診療報酬改定についての変更点 (看護必要度、短期滞在手術料取り扱い等) の情報共有と新規申請施設基準の検討、機能評価係数の対策、救急医療管理加算の算定状況、院内全体向け診療報酬研修会を 9 月と 3 月の 2 回開催した。診療報酬研修会では 9 月は 143 名、3 月は 111 名の参加があった。

4 来年度の課題

平成 30 年度診療報酬改定の検証と、査定率管理、新規施設基準獲得のための検討を行う。また暫定調整係数廃止による影響を検証する。

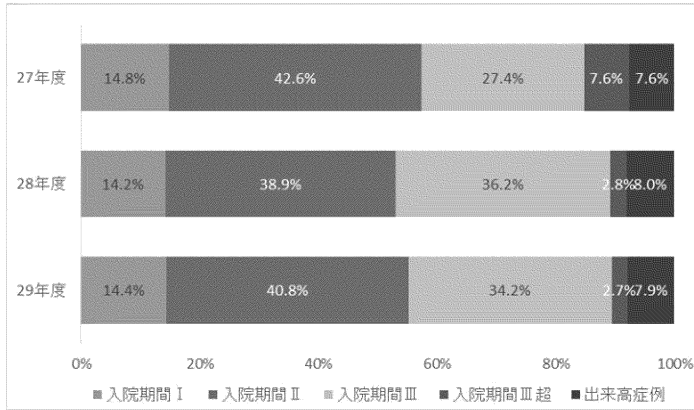
【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

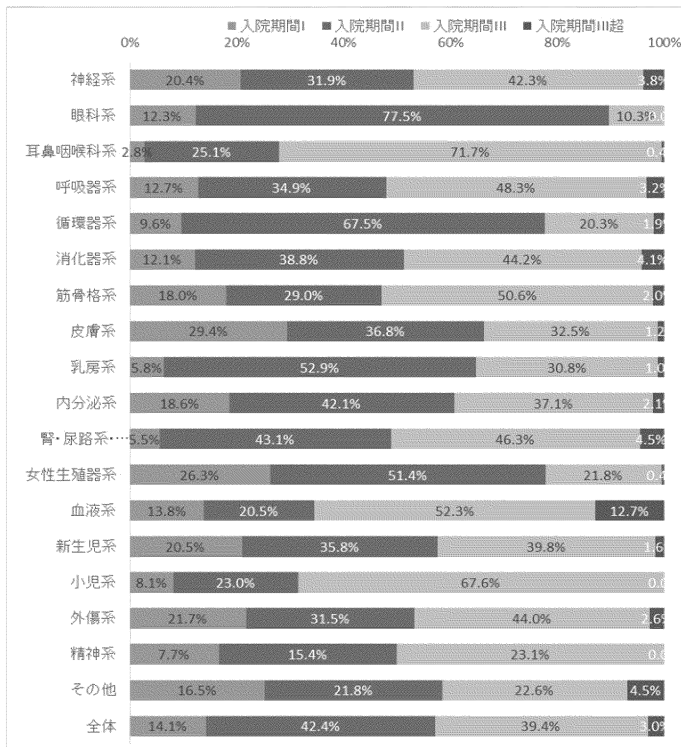
D P C 統 計：出来高比稼働額統計、DPC 症例 (平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等)、臨床評価指標 (死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等)、DPC 件数、増収、減収 TOP20

D P C 分 析：県下 3 群病院機能評価係数Ⅱ分析

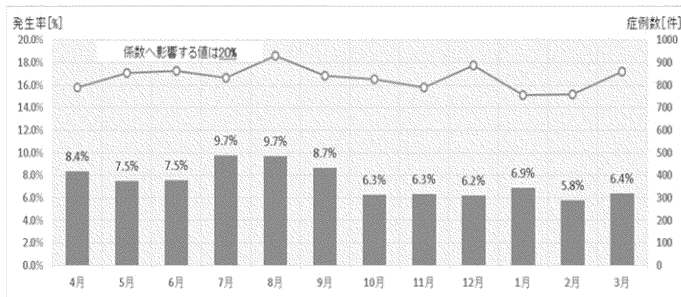
DPC 入院期間比率



DPC MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国のDPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は入院期間Ⅱが全国平均の入院期間である。

DPC ではこの入院期間Ⅱまでの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する効率性係数という部分に影響する。またDPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、データ提出係数という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、1日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

(文責 鈴木 康之)

■職員研修委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	矢田 大輔 (産婦人科)
副委員長	大石 悦子 (副看護部長)	委員	野田 文子 (臨床検査科)
委員	澤口 信孝 (中央放射線科)	委員	佐藤 実香 (薬剤科)
委員	木下 和佳 (手術室)	委員	鈴木 かほり (4 B病棟)
委員	遠藤 喜巳子 (5 B病棟)	委員	遠藤 雅和 (6 B病棟)
委員	岩間 由加里 (7 B病棟)	委員	鈴木 道代 (3 B病棟)
委員	小池 博也 (病院経営課)	委員	川本 悦子 (医事課)
事務局	中村 崇人 (病院総務課)		

2 開催回数

6回 (内2回は講演会) 不定期

3 平成29年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和60年7月1日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画と先進病院等の視察である。

平成29年度は、職員の業務効率化やモチベーション増加、職場への満足度上昇のため、外部講師を招き、講演会「コミュニケーションを円滑にするための研修」を開催し、職員117名の参加があった。

また、職員一人ひとりが認知症を正しく理解し、知識を習得することが通常業務においても有益であると考え、昨年度に引き続き認知症サポーター養成講座を開催し、職員57名が参加した。

先進病院等の視察では、東京ビッグサイトで行われたHOSPEX Japan 2017に参加。このイベントは日本最大級の医療・福祉設備機器に関する専門展示会であり、職員それぞれが各業務に関連する分野において、新たな知識を習得すると同時に、先進技術に対する意識の向上を図った。

4 来年度の課題

職員の更なる能力向上のためのテーマを決め、研修会の開催をはじめ、先進技術を取り扱う施設等への視察を計画する。

(文責 伊藤 すみ子)

■図書委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)	委員	谷田部 沙織 (外科)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	江崎 直哉 (整形外科)
委員	宮坂 玄樹 (整形外科)	委員	大石 悦子 (副看護部長)
委員	木村 佳弘 (薬剤科)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
事務局	若杉 泰之 (医事課)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)

2 開催回数

2回 (7月、2月)

3 平成29年度の取組実績

- ・年間で185冊の医学書籍の購入を行った。
- ・雑誌127誌の定期購読契約更新 (和雑誌105誌・洋雑誌22誌) を行った。
- ・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamⅢ」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
- ・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子書籍サービスの案内を全医師に対して行った。
- ・新たな電子ジャーナルサービスとしてUp To Dateの導入について検討した。
- ・地域医療支援病院申請に関連し、地域連携室と共同で医学資料室の外部利用規定を定め、運用を開始した。

4 来年度の課題

- ・医学雑誌の電子ジャーナル、電子書籍の導入をすすめるとともに、定期購読誌の見直しを行う。
- ・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
- ・医学資料室の利便性や機能性の向上、方向性について検討を行う。

(文責 笠井 健司)

■診療情報管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	津島 友央 (皮膚科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	吉田 清哉 (外科)
委員	森本 康江 (4 B病棟)	委員	齋藤 洋実 (3 C病棟)
委員	若杉 泰之 (医事課)	事務局	島田 英介 (医事課)
事務局	齋藤 智恵美 (医事課)		

2 開催回数

4回 (隔月、第2木曜日)

3 平成 29 年度の実績

診療情報管理委員会では、以下の内容を検討・実施した。

- ・同意書に付随する説明書の取り扱いについて、要約を同意書に明記し、スキャンし保存することを検討した。
- ・患者カルテ開示を行った情報を電子カルテへ入力することとした。
- ・患者死亡時の記録を、医師が死亡日時・直接死因・家族への説明についてカルテへ記述を行うよう周知を図った。
- ・紹介状に添付する他院の画像CDの取り扱いについて検討した。
- ・カルテの保存について、外来 (平成 20 年以前)、入院 (平成 15 年以前) 分を廃棄することとした。
- ・病院機能評価受審準備として、診療情報関連項目の問題点について検討した。カルテの量的監査はマニュアルを作成し運用を始め、質的監査は退院時要約について診療部長が診療科の承認権限を持ち、これを行うこととした。
- ・サマリー作成率向上のため、診療科を細分化した資料を毎月診療部長会議へ提出し、年間の退院後 14 日以内作成率は 92.8%であった。
- ・その他、臨床指標の定期的計測、臨床研究の不同意表明患者の報告を行った。

4 来年度の課題

退院後 14 日以内のサマリー作成率 90%維持を働きかける。

病院機能評価受審のためカルテの量的監査を継続する。

(文責 鈴木 康之)

■医療機器整備委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	西田 英明（臨床工学科）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

2 開催回数

4回

3 平成 29 年度の実績

医療機器の適正なる整備を図ることを目的とし、以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の性能等を総合的に検討し購入機種を決定した。

- ・低温プラズマ滅菌装置の更新
- ・PCPS 装置の更新
- ・誘発電位測定装置の更新
- ・一般撮影装置の更新

4 来年度の課題

平成 30 年度購入予定機器

- ・自動ジェット式超音波洗浄装置の更新
- ・心電図モニターの更新

（文責 柏木 秀幸）

■手術室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	井上 恒佳 (麻酔科)
副委員長	小林 由美 (手術室)	委員	西村 礼司 (形成外科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	渡辺 勝 (眼科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	木下 浩司 (循環器内科)	委員	武井 淳 (脳神経外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	池谷 幸一 (中央放射線科)
委員	諏訪部 新 (臨床工学科)	委員	池田 琢 (臨床検査科)
委員	石川 裕子 (手術室)	委員	望月 久子 (手術室)
委員	杉本 祐介 (手術室)	委員	佐野 陽子 (手術室)
委員	伊藤 輝美 (手術室)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	手術室		

2 開催回数

12回 (毎月1回、第4月曜日)

3 平成29年度の取組実績

- 1) 平成29年度に手術室を利用した手術は、総手術件数4,010件(平成28年度3,804件,平成27年度3,788件)、緊急手術491件(559件,564件)、定期手術3,519件(3,245件,3,224件)、全身麻酔手術1,800件(1,654件,1,605件)、全身麻酔以外2,210件(2,150件,2,183件)であった。手術件数の増加は206件(5.4%)であったが、主に定期の全麻手術の増加によるものであった。
- 2) 手術件数の増加により科別の手術時間の延長は平均46.8%と多く、定期手術の退出時間が午後5時以降となる件数も少なくなかった。
- 3) 手術枠を有効に使用するために各科にアンケートを施行し、定期的に見直すこととした。

4 来年度の課題

- 1) 手術室の老朽化した診療機器の更新を行う
- 2) 手術スタッフの人手不足の改善に努める
- 3) 定期的に手術枠の見直しを行う
- 4) 男子更衣室のレイアウトを変更する

(文責 良元 和久)

平成29年度 手術室稼働統計

【緊急・定期別件数】

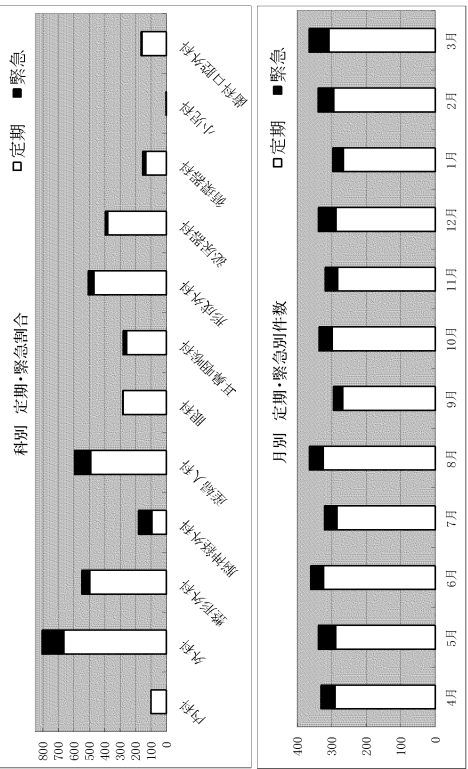
診療科	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	
内科	100	11	6	12	9	6	9	9	7	8	5	10	10	7	10	10	10	7	10	10	7	10	10	7	8	100	100
外科	804	12	50	58	11	62	8	51	12	65	9	49	7	57	8	52	15	60	13	51	19	55	12	53	141	683	
整形外科	547	6	43	6	40	2	40	6	36	4	43	5	41	5	43	6	45	6	40	2	40	5	44	4	45	52	495
脳神経外科	181	5	8	7	5	10	3	5	8	4	2	10	9	9	9	6	11	6	7	8	7	6	19	9	88	93	
産婦人科	595	9	31	11	43	11	43	10	40	6	47	6	35	9	42	9	43	11	43	6	44	7	38	11	40	106	489
眼科	283	23	28	21	29	21	29	29	1	23	1	18	20	1	26	23	18	23	21	21	26	21	26	24	2	281	
耳鼻咽喉科	280	2	28	2	17	2	18	2	22	3	25	2	21	2	21	2	25	2	25	1	17	2	22	5	22	22	258
形成外科	506	2	42	4	43	2	46	4	43	3	51	2	32	2	36	3	36	6	32	2	38	1	38	6	45	37	469
泌尿器科	397	2	30	1	33	1	33	5	29	33	2	30	2	31	3	35	1	29	27	27	31	31	1	38	18	379	
循環器科	153	3	15	2	11	3	17	10	3	9	9	3	12	1	12	1	4	10	6	6	1	13	9	9	20	133	
小児科	1																									1	
歯科口腔外科	163	9	1	10	14	14	11	11	19	15	15	15	15	15	15	14	12	12	10	10	4	14	14	15	5	158	
総計	4,010	41	290	50	289	37	324	36	285	40	325	27	268	38	283	51	288	31	266	31	266	46	294	58	308	491	3,519

【麻酔区分別件数】

診療科	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	
内科	100	11	6	12	9	6	9	9	7	8	5	10	10	7	10	10	7	10	10	7	10	10	7	8	100	100	
外科	804	41	21	49	24	43	30	37	22	52	25	40	18	41	23	45	15	53	48	16	56	18	43	22	548	256	
整形外科	547	10	39	11	35	11	31	13	29	12	35	17	29	13	35	14	22	16	35	7	35	13	36	11	38	148	399
脳神経外科	181	7	6	4	11	8	7	4	6	6	8	4	9	9	9	10	5	13	4	7	8	9	4	12	16	97	84
産婦人科	595	29	11	31	23	30	24	25	32	21	20	21	33	18	30	22	30	24	27	23	28	28	17	28	23	343	252
眼科	283	23	23	2	27	2	27	29	1	23	2	17	1	25	1	22	18	23	21	21	26	21	26	24	7	276	
耳鼻咽喉科	280	28	2	18	1	17	3	20	2	27	1	20	1	21	1	20	3	25	2	16	2	23	1	27	262	18	
形成外科	506	5	39	9	38	9	39	11	36	15	39	12	22	11	27	6	33	4	27	8	26	7	32	13	38	110	396
泌尿器科	397	7	25	3	31	7	27	8	26	6	27	4	28	7	26	7	31	6	24	5	22	6	25	11	28	77	320
循環器科	153	9	9	6	7	11	9	6	4	3	9	6	3	4	11	6	7	4	10	2	4	5	9	3	6	65	88
小児科	1																									1	
歯科口腔外科	163	7	2	8	3	12	2	9	2	18	1	13	2	14	1	14	9	3	10	10	4	14	4	14	1	142	21
総計	4,010	143	188	139	200	150	211	133	188	172	193	142	153	154	183	154	165	160	130	167	161	179	162	204	1,800	2,210	

【手術室稼働件数・年別推移】

診療科	甲込区分別						麻酔区分別						合計		
	定期			緊急			全麻			全麻以外			27年度	28年度	
	27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	
内科	87	81	100	4	8	1	90	89	100	91	89	100	27年度	28年度	
外科	558	574	663	166	170	141	525	548	212	219	256	724	744	804	
整形外科	522	504	495	80	91	52	222	148	371	373	399	602	595	547	
脳神経外科	54	67	93	78	75	88	72	97	58	70	84	132	142	181	
産婦人科	486	446	489	132	118	106	285	296	343	333	268	522	564	595	
眼科	223	258	281	2	2	2	8	7	217	252	276	225	260	283	
耳鼻咽喉科	243	279	258	14	11	22	237	250	262	20	40	18	257	290	
形成外科	558	524	469	53	38	37	55	63	110	556	499	396	611	562	
泌尿器科	248	273	379	17	30	18	37	47	77	228	256	320	265	303	
循環器科	108	113	133	15	15	20	40	68	65	83	60	88	123	128	
小児科	137	126	1	2	1	125	103	1	14	24	1	139	127	1	
歯科口腔外科						5	142	1	1	21	1	163			
総計	3,224	3,245	3,519	564	559	491	1,605	1,654	1,800	2,183	2,150	2,210	3,788	3,804	4,010



■薬剤委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	落合 敏明 (薬剤科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	西村 礼司 (形成外科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	佐伯 千里 (消化器内科)	委員	井上 恒佳 (麻酔科)
委員	河野 優 (神経内科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	松岡 諒 (小児科)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	良元 和久 (手術管理科・外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	道本 顕吉 (放射線科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	玉舟 正弥 (病院経営課)
委員	寺田 和子 (医事課)	事務局	薬剤科

2 開催回数

3回開催【6月・10月・3月の第3週月曜日：平成29年7月3日（月）、平成29年10月30日（月）、平成30年3月5日（月）】

3 平成29年度の取組実績

新規採用薬品、院外処方許可薬品、後発薬品、削除薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

- ①新規採用品目 : 65製剤 92品目
- ②院外処方許可薬 : 29製剤 33品目
- ③後発薬品 : 14製剤 16品目
- ④削除薬品 : 53製剤 68品目
- ⑤後発薬品置き換え率 : 78.9%

4 来年度の課題

- ①採用薬品の選定: より良い医療が提供できる適切な医薬品の採用に努める。また、適正在庫に努め、削除品目の選定を行う。
- ②後発医薬品調剤体制加算: 施設基準である「カットオフ値」50%以上を達成し、後発医薬品置換え率80%以上を目指す。

(文責 笠井 健司)

■医療ガス安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁(副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢 利次(事務部長)
委員	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	委員	井上 恒佳(麻酔科)
委員	石川 隆之(臨床検査科)	委員	井出 宣孝(診療技術部長)
委員	落合 敏明(薬剤科)	委員	西田 英明(臨床工学科)
委員	渡辺 利英(病院総務課)	事務局	中川 貴裕(病院総務課)
事務局	岩間 雄一郎(病院総務課)		

2 開催回数

1回：平成29年11月17日(金)

3 平成29年度の取組実績

医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とし、以下の内容を実施した。

1) 医療用ガスボンベの巡回点検

【日時】平成29年6月29日(木)

【目的】医療用ガスボンベの安全確認と高圧ガスであることの認識を高めるため、各設置場所(21部署)を巡回点検し、問題がある場合は指導を行い、改善を図る。

【内容】1. 酸素ボンベ置場の表示

2. 酸素ボンベの本数と保管状況(高圧ガス保安法第15条、保安規則18条)

①酸素の充填容器の周囲2m以内には引火性のものを置かないこと

②転倒防止の措置を講じること

③直射日光に当てないなど常に40℃以下に保つこと

3. 流量計取付け用レンチの有無

2) 「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日時	対象	参加人数	研修内容
H29. 4. 24	新規採用看護師	42名	酸素ボンベの取扱い他(実習・ビデオ)
H29. 11. 1 15 22	医療補助員	98名	事故症例・酸素ボンベについて 配管末端の日常点検

4 来年度の課題

- 1) 医療ガスに関する環境整備（法令順守）の徹底を行い事故防止に努める
- 2) 配管端末器、ホースアセンブリの日常点検の慣習化
- 3) 巡回点検により医療ガスの認識度を高める
- 4) 安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

(文責 諸岡 暁)

■臨床研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司(副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	鈴木 康之(副院長兼産婦人科部長)
委員	柏木 秀幸(院長)	委員	梶本 徹也(外科)
委員	後藤 博一(泌尿器科)	委員	秋山 直枝(小児科)
委員	井上 恒佳(麻酔科)	委員	遠藤 泰彦(病理診断科)
委員	勝山 直彦(歯科口腔外科)	委員	杉沢 利次(事務部長)
委員(外部)	永井 しづか(富士保健所)	委員(外部)	高木 啓(鷹岡病院)
委員(外部)	上田 正山(上田クリニック)	委員(外部)	海野 公成(海野皮フ科医院)
事務局	鈴木 裕子(病院総務課)		

2 開催状況

第1回臨床研修管理委員会(平成30年3月16日)

議題(1)平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画(案)について

(2)研修医の初期臨床研修修了認定について

(3)平成29年度・30年度の初期臨床研修医について

(4)臨床研修案内及びプログラム(案)について

3 平成29年度の実績

(1)研修医採用 医師:2名

歯科医師:1名(日本歯科大学協力病院として)

(2)マッチング 申込者:14名、マッチ:4名

(3)合同説明会 ①メックマッチングフェア2017

平成29年4月23日(日)ベルサール新宿グランド

②レジキャリフェア

平成29年6月11日(日)アキバ・スクエア

③ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ夏季セミナー

静岡県医師臨床研修病院(初期・後期)合同説明会 in 浜松

平成29年7月8日(土)アクトシティ浜松コンgresセンター

④レジナビフェア2017 in 東京

平成29年7月16日(日)東京ビッグサイト

⑤聖マリアンナ医科大学訪問

平成29年12月11日(月)

⑥静岡県医師臨床研修病院(初期・後期)合同説明会 in 静岡

平成30年3月21日(水)グランシップ

- (4) 医学生病院見学 延べ 40 名 (聖マリアンナ医科大学、東京女子医科大学、他)
- (5) 東京慈恵会医科大学実習生 (クリニカルクラークシップ) 受入れ
消化器内科 6 名、循環器内科 4 名、小児科 9 名
- (6) 浜松医科大学実習生受入れ
産婦人科 9 名
- (7) 医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生 1 日体験
平成 29 年 8 月 3 日 (木) 21 名 (医師志望 6 名、歯科医師志望 2 名、
薬剤師志望 13 名)
- (8) ブラックジャックセミナー協力 (市内中学生手術模擬体験)
平成 29 年 8 月 19 日 (土)
- (9) 合同研修会等
 - ①静岡県主催初期臨床研修合同研修会
超音波診断の基礎・縫合・気道管理
平成 29 年 6 月 10 日 (土)
 - ②BLS 講習会
平成 29 年 6 月 24 日 (土)
 - ③ACLS プロバイダーコース
平成 29 年 9 月 23 日 (土)、24 日 (日)
 - ④静岡県主催初期臨床研修合同研修会
気道管理・分娩技術・中心静脈穿刺・超音波診断の基礎
平成 29 年 10 月 21 日 (土)
 - ⑤災害対策訓練
平成 29 年 11 月 25 日 (土)
 - ⑥内視鏡手術講習会
平成 30 年 2 月 17 日 (土)
 - ⑦臨床研修医スキルアップ研修
毎月第 4 金曜日

(文責 笠井 健司)

■院内感染対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸 (院長)	副委員長	後藤 博一 (感染対策室長・泌尿器科)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	委員	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	大石 悦子 (副看護部長)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)
委員	増田 満伯 (感染対策室)	事務局	感染対策室

H I V部会スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	部員	6名

2 開催回数

12回 (毎月1回、第1金曜日医療安全管理委員会と同時開催)

3 平成29年度の取組実績

病院感染低減のため感染防止活動の指示及び統括を行った。ICTからの検討事項の承認やインフルエンザ対策としての面会制限など病院感染防止を指示した。また、感染性廃棄物は段ボール製廃棄容器の導入によりコスト削減を達成した。

4 来年度の課題

感染対策に関する最新知見やエビデンスを考慮した病院感染防止活動を推進し、安全な医療を提供し地域に信頼される病院となる。また、地域と緊密な連携をとり、富士医療圏の感染対策強化に努める。

(文責 柏木 秀幸)

■倫理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	後藤 博一 (診療参事兼泌尿器科部長)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	落合 敏明 (薬剤科)
委員	杉沢 利次 (事務部長)	委員	森 育洋 (医事課)
外部委員	安倍 徹 (前静岡県教育長)	外部委員	石山 むづ美 (常葉大学保育学部教授)
事務局	深澤 公保 (病院総務課)		

2 開催回数

18回 (定例：5回、迅速13回)

3 平成29年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成7年5月10日に設置された。

委員会を18回開催、24案件を審議した結果、委員会の意見等を付して23案件を承認した。

申 請 内 容	申請	承認	修正を要する	申請を要しない	その他
論文化、学会雑誌への投稿	2	2	—	—	—
保険適用外の検査、診療、 薬剤使用	6	5	1	—	—
他施設で行われる治験への参加	0	0	—	—	—
当院としての対応方針の検討	1	1	—	—	—
大学・財団等で行われる 医学的研究への参加	15	15	—	—	—

4 来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

(文責 鈴木 康之)

■訪問看護退院調整委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	北島 美鈴 (外来)
委員	谷田部 沙織 (外科)	委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	望月 保子 (薬剤科)	委員	小野田 智恵子 (3 B病棟)
委員	本多 すみ江 (7 A病棟)	委員	河合 利枝 (6 A病棟)
委員	赤堀 崇代 (在宅療養支援グループ)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	村松 和歩 (在宅療養支援グループ)	委員	佐藤 理絵 (医事課)
委員	宇佐美 朝子 (栄養科)	事務局	村松 和歩 (在宅療養支援グループ)

2 開催回数

3回 (6月、11月、3月 第3水曜日)

3 平成29年度の取組実績

(1) 訪問看護実施患者の紹介と経過報告及び訪問看護終了者報告

訪問看護実施中の患者について訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際を他のスタッフと検討した。さらに、訪問看護の終了者の事例を検討し、看護の実際について情報を共有した。

(2) 新規訪問看護患者の紹介と承認

病棟より依頼を受けた患者さんについて、当院での訪問看護を実施するための承認を受けた。新規承認患者数：46名

(3) 退院調整患者報告

退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。

<検討患者数：15名>

(4) 訪問看護・退院調整業務の運営について、問題点を抽出し改善点について検討した。

(5) 在宅終末期ケアが必要な患者・家族への支援について事例検討会を行った。

(6) 日本看護協会認定訪問看護認定看護師が看護の専門性を発揮した活動を行った。

4. 来年度の課題

平成30年度の病院指針「つながる力 認め合う心 高め合う支援」のもと、看護部の訪問看護退院調整担当委員会と連携し、さらに専門的ケアが必要な患者に対しては他分野の認定看護師と同行訪問し、患者・家族の満足度が向上する活動を実施していく。 (文責 勝又 千壽子)

■栄養管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	委員	市原 恒平 (外科)
委員	伊藤 すみ子 (看護部長室)	委員	森本 康江 (4 B病棟)
委員	松山 早登美 (5 B病棟)	委員	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	植松 和子 (7 B病棟)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	森 育洋 (医事課)
事務局	小俣 朋子 (栄養科)	事務局	古郡 朝子 (栄養科)
事務局	大山 実希 (栄養科)	事務局	望月 唯奈 (栄養科)

2 開催回数

5回 (5月・7月・9月・11月・3月に実施及び毎月定例会報告を実施)

3 平成29年度の取組実績

- ①委員会のメンバーで昼食を検食し献立の確認を行った。
- ②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。(年間4回実施)
- ③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し合わせて破損状況も確認、紛失・破損に対しては追加購入を行い、補充対応した。
- ④異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデントについての報告を行い委員会内でその後の対応・改善策を報告、また誤配膳防止対策としては禁止食品があるコメント対応の患者に対しては、トレーの色分け(ピンク色)や専用食器を導入し、最終の目視チェックを強化し誤配膳の発生を防止できた。
- ⑤幼児術前食の食事内容の見直し、院内約束食事箋の見直しを行い、新しい食種の考案やコメント項目の見直しなども検討し作成中である。
- ⑥経営改革推進委員会より事業計画書の中に掲げている経営基盤の強化項目として、栄養指導件数の増加を収入の確保として、栄養相談室の改修工事を実施、栄養指導枠の増設を行い、担当医へ栄養指導依頼を周知、指導件数の増加を狙った。

4 来年度の課題

今後も検食、嗜好調査を通して病院食のさらなる改善をはかっていく。

また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数を減少するように努めていく。(文責 坪井 一人)

■中央放射線科運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	道本 顕吉 (放射線科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	副委員長	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	良元 和久 (手術管理科・外科)	委員	武井 淳 (脳神経外科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	高木 省一 (中央放射線科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	北島 美鈴 (外来A)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	望月 敦子 (外来C)	事務局	遠藤 佳秀 (中央放射線科)

2 開催回数

2回

3 平成 29 年度の取組実績

- ・CT を 64 列に変更後、スループットの向上等で約 10%の増加がみられた。
- ・病診連携は、予約枠の拡大や CD 郵送等のシステム改善により 161 件増加した。
- ・電子カルテの更新に合わせ、2重起動防止策として、端末起動時にビューアも起動するよう外来・病棟に高精細モニターを設定した。また、一般撮影で2面モニターの画面展開が若干複雑になっている件に関しては、現状を把握し対応を実施した。
- ・緊急検査以外の時間外予約枠設定は、人員を確保するため、日勤時間内をお願いしたいが、必ずしも実践できない科においても、一応相談していただくこととなった。
- ・地域医療支援病院として、中央放射線科も病診連携を強化し対応していく。
- ・7月にパノラマ撮影装置と歯科用CR装置を導入。顎関節撮影にも適応、また車いすのまま撮影可能となり、患者サービスの向上が図れた。
- ・中央放射線科受付業務の改善に向け、引き続き、効率的な職員配置の検討を病院に依頼していく。

4 来年度の課題

- ・医療機器の計画的更新、および管理体制の充実により、患者さまに優しい、安全な医療の確立

(文責 道本 顕吉)

■臨床検査連絡委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	遠藤 泰彦 (病理診断科)
副委員長	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	三川 秀文 (循環器内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 貴之 (小児科)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	市原 恒平 (外科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	武井 淳 (脳神経外科)	委員	植松 和子 (7 B病棟)
委員	大井 洋子 (4 A病棟)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	杉山 彩 (医事課)	委員	鈴木 雅人 (臨床検査科)
委員	渡辺 修 (臨床検査科)	委員	渡邊由喜子 (臨床検査科)
委員	鈴木 英昭 (臨床検査科)		

目的 臨床検査と他部門との相互の連絡を密にし、業務上の糧とする。

2 開催回数

4回 (6月、9月、12月、3月の第3水曜日に開催)

※委員会報告は電子カルテ「事務関係」より閲覧可

3 平成29年度の取組実績

- ・院内臨床検査基準範囲の一部を日本臨床検査標準協議会より示された共用基準範囲を基に改訂し、全国の医療施設との標準化を行った。
- ・検査データの質的向上に取組み、臨床検査技師会精度保証施設の認定を更新した。
- ・安全な輸血医療の推進に取組み、輸血細胞治療学会 I&A 認証施設を更新した。
- ・輸液中の採血時に発生する医療事故防止に向けて採血手順の再確認を行った。
- ・診療報酬算定廃止に伴い3月31日をもって ZTT 膠質反応検査の測定を終了した。
- ・臨床検査技師会精度管理調査結果を提示し、外部精度管理の状況を報告した。
- ・剖検数の状況を報告し、病理解剖に関する受付、対応、連絡方法等を周知した。
- ・富士市立中央病院 CPC を2回、病理解剖報告会を4回開催した。

4 来年度の課題

- ・臨床や他部門との連携を図り、要望や意見、課題には速やかに対応する。
- ・信頼される検査データの提供に向け、精度管理を更に向上させる。
- ・新たな検査技術、知識の習得に努め、院内学術活動の推進に協力する。

(文責 笠井 健司)

■救急室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
副委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	北島 美鈴 (外来看護長)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	下村 達也 (泌尿器科)	委員	村上 宏史 (整形外科)
委員	鈴木 貴之 (小児科)	委員	角皆 季樹 (小児科)
委員	渡邊 広明 (臨床検査科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	白戸 幸子 (外来C)	委員	柘植 範子 (外来C)
委員	若本 奈緒美 (外来C)	委員	加藤 千代美 (医事課地域連携室)
事務局	加藤 菜緒 (病院総務課)		

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2木曜日)

3 平成29年度の取組実績

平成29年度1年間の救急外来受診者数は9,133名であり、当院に入院となった患者総数は3,846名 (入院率42.1%)。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は7,032名で、当院に入院となった患者総数は、2,767名 (入院率39.3%)であった。

救急車による搬入は総数で3,743名であった。そのうち、入院した患者数は2,101名 (入院率56.1%)であり、休日・祝日・夜間の救急車での搬入患者数は2,615名であった。そのうち、入院した患者数は1,444名 (入院率55.2%)であった。休日・祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は1,297名で、そのうち、入院となった患者総数は592名 (入院率45.6%)であった。診療所・開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は1,058名で、当院に入院となった患者総数は623名 (入院率58.9%)であった。

4 来年度の課題

富士市内の二次救急を担う病院は医師不足の状況で救急医療を行っており、救急医療要請に十分対応できず、近隣の市外の病院への搬送を余儀なくされる事案が生じることもある。この状態を改善させるには、二次病院の協力が必要なため、委員会等を通じた問題解決と連携体制の保持に努める。また、救急消防隊 (警防課) とは定期的に救急搬送に関する事例検討を行う。 (文責 藤井 常宏)

■内視鏡室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	佐伯 千里 (消化器内科)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	庄司 亮 (消化器内科)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	鍋島 雄和 (中央放射線科)
委員	植松 和子 (7B病棟)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	田島 眞弓 (外来D)	委員	仁藤 伸代 (外来C)
事務局	内視鏡室		

2 開催回数

6回 (毎月1回、第3木曜日)

3 平成29年度の取組実績

- (1) 放射線15室において患者さんの安全確保のため、検査台用安全ベルトや柵を導入した。
- (2) 内視鏡3室と放射線15室に内視鏡用光源およびモニターを新たに導入した。

4 来年度の課題

- (1) 本年度に引き続き内視鏡検査、治療の増加が予想されることより、効率の良い運用に努める。
- (2) 内視鏡デバイスや洗浄機の劣化にともない、修理費用が増加しており、新しい内視鏡の導入や洗浄機をリースに変更するなどして内視鏡室維持費の削減に努める。
- (3) 超音波内視鏡や胆道内視鏡件数が増加しており、内視鏡デバイスの導入や見直しを行う。

(文責 佐伯 千里)

■褥瘡対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	津嶋 友央 (皮膚科)	副委員長	植松 和子 (7B病棟)
委員	平川 正彦 (形成外科)	委員	田中 慶子 (外来A)
委員	戸塚 美晴 (外来B)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	伊藤 輝美 (手術室)	委員	諸星 美恵子 (3C病棟)
委員	渡辺 明子 (6A病棟)	委員	山中 祐子 (6B病棟)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員	古郡 朝子 (栄養科)
委員	大山 実希 (栄養科)	委員	望月 唯奈 (栄養科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	杉山 かなた (リハビリテーション科)
委員	永嶋 泰玄 (リハビリテーション科)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

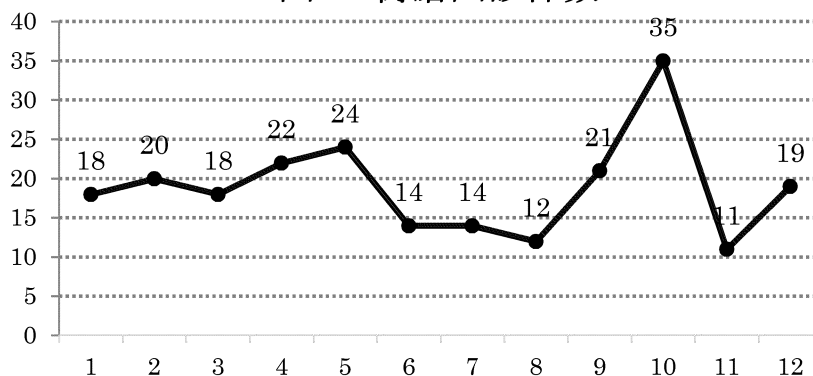
2 開催回数

9回 (毎月1回、第4火曜日。8月・12月・3月を除く)

3 平成29年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に1回行っており、月ごとの回診件数を図1に示す。平均は19件/月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図2に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図3に示す。平成29年度の年間平均値は、1.10%であり全国平均の1.60%より低い。

図1 褥瘡回診件数



褥瘡ハイリスク患者ケア加算 (1入院につき1回算定: 500点) は平成29年度で1,580件 (月平均132件) 算定した。

図2 褥瘡件数

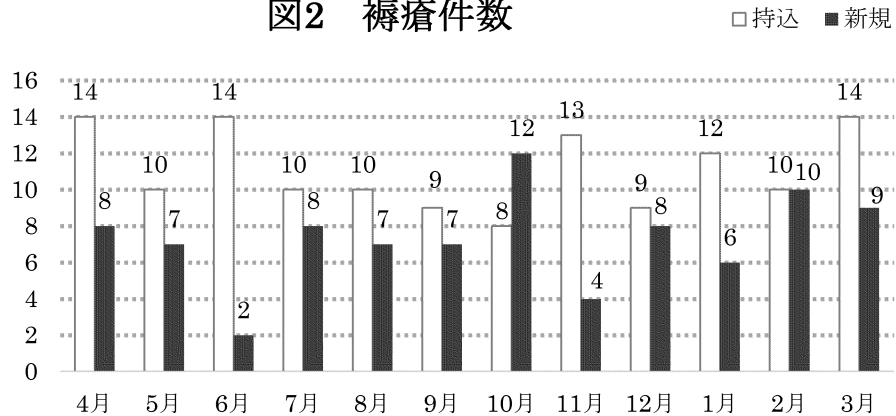
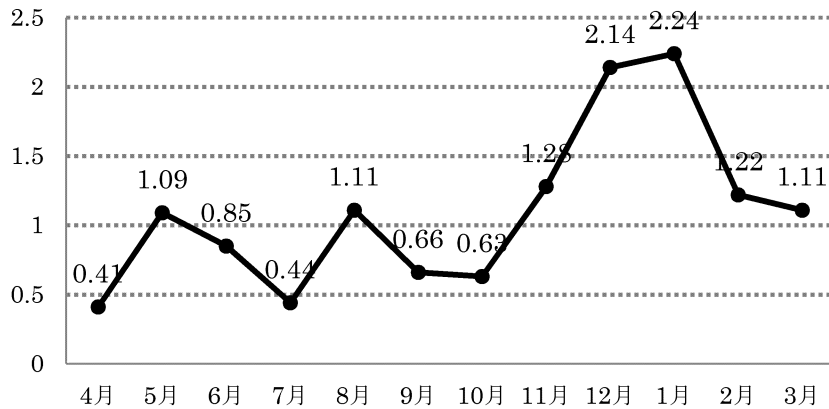


図3 褥瘡推定発生率 (%)



(※) 褥瘡推定発生率

$$\frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数} \times 100}$$

平成 29 年度の体圧分散寝具の稼働率は 98.9%であった。

平成 29 年 10 月 25 日に、パラマウントベッド株式会社による勉強会を開催した。

『褥瘡防止につながる用具について』をテーマとし、141 名の職員が参加した。

4 来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していききたい。また、体圧分散用具やクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図っていききたい。

(文責 津嶋 友央)

■クリニカルパス委員会

1 スタッフ

【委員会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久（外科）	副委員長	遠藤 里花（6 A病棟）
委員	伊藤 公博（消化器内科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	井出 正俊（歯科口腔外科）	委員	山田 崇之（循環器内科）
委員	矢田 大輔（産婦人科）	委員	勝又 祐子（7 B病棟）
委員	小坂 裕介（薬剤科）	委員	島田 英介（医事課）
委員	佐野 元美（医事課）	事務局	岡本 功（医事課）
事務局	川本 悦子（医事課）		

【クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久（外科）	副部会長	勝又 祐子（7 B病棟）
副部会長	小林 二十美（5 A病棟）	部員	他 24 名

【化学療法クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久（外科）	副部会長	遠藤 里花（6 A病棟）
部会員	他 12 名		

【地域連携クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久（外科）	部会員	他 8 名

2 開催回数

【委員会】 11 回（毎月 1 回、第 1 金曜日）

【クリニカルパス部会】 11 回（毎月 1 回、第 2 火曜日）

【化学療法クリニカルパス部会】 0 回（原則第 4 金曜日）

【地域連携クリニカルパス部会】 1 回（11 月 8 日）

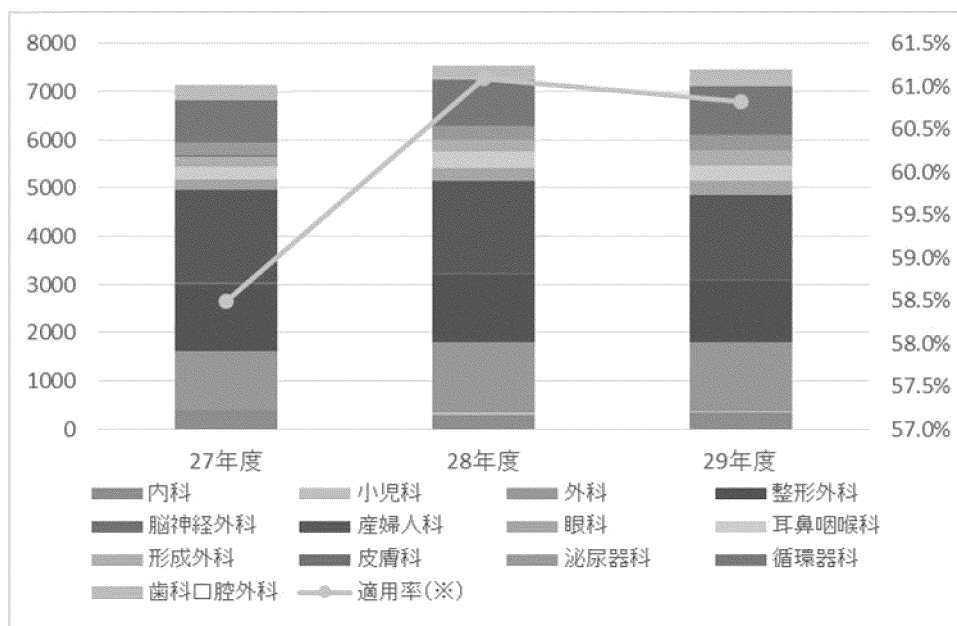
3 平成 29 年度の取組実績

平成 29 年度は、10 月 10 日、2 月 13 日の 2 回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、薬剤科におけるクリニカルパスへの関わりや、バリエーション分析についての発表を行った。

平成 29 年度に適応したクリニカルパスは 7,461 件であり、27 年度から 3 年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。

クリニカルパス適用件数				
	27年度	28年度	29年度	平均適用
内科	391	293	343	342
小児科	11	45	34	30
外科	1236	1464	1423	1374
整形外科	1371	1414	1299	1361
脳神経外科	42	35	24	34
産婦人科	1915	1916	1729	1853
眼科	229	254	293	259
耳鼻咽喉科	257	350	342	316
形成外科	216	223	300	246
皮膚科	19	14	16	16
泌尿器科	258	294	311	288
循環器科	878	956	1006	947
歯科口腔外科	327	296	341	321
総計	7150	7554	7461	7388
適用率(※)	58.5%	61.1%	60.8%	60.1%

※ クリニカルパス適用率＝クリニカルパス適応件数÷電子カルテ上入院件数×100



4 来年度の課題

- ・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる
- ・アウトカムを Basic Outcome Master に置き換える
- ・地域がん診療病院、地域医療支援病院として、地域連携パスの体制整備について更なる協議を行う
- ・パス作成に関して、部会員向けの勉強会の場を設ける

(文責 良元 和久)

■病院機能改善委員会

1 スタッフ

(1) 全体会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	阪本 宏志 (ICU, 循環器内科)	委員★	良元 和久 (手術室, 5 B, 外科)
委員★	後藤 博一 (3 B, 泌尿器科)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長, 4 A, 産婦人科)
委員	松岡 諒 (4 B, 小児科)	委員	重田 泰史 (5 A, 耳鼻咽喉科)
委員	山城 秀樹 (6 A, 糖尿病・内分泌・血液内科)	委員★	高橋 康人 (6 B, 腎臓内科)
委員	山田 崇之 (7 A, 循環器内科)	委員	伊藤 公博 (7 B, 消化器内科)
委員	加藤 努 (3 C, 整形外科)	委員★	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長, 腎臓内科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	外岡 雄二 (精神神経科)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	秋山 直枝 (小児科)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	西村 礼司 (形成外科)	委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	道本 頤吉 (放射線科)	委員	井上 恒佳 (麻酔科)
委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員★	加藤 寛史 (薬剤科)	委員★	西田 英明 (臨床工学科)
委員★	渡邊 由喜子 (臨床検査科)	委員★	小俣 朋子 (栄養科)
委員★	中村 公美 (リハビリテーション科)	委員	齋藤 幸子 (集中治療室)
委員	小林 由美 (手術室)	委員	大塚 君子 (3 B病棟)
委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)	委員	森本 康江 (4 B病棟)
委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)	委員	松山 早登美 (5 B病棟)
委員	遠藤 里花 (6 A病棟)	委員	齋藤 正美 (6 B病棟)
委員	勝山 弘子 (7 A病棟)	委員	植松 和子 (7 B病棟)
委員★	野澤 里美 (3 C病棟)	委員	北島 美鈴 (外来A)
委員	白戸 幸子 (救急外来)	委員★	田中 慶子 (外来A)
委員★	渡邊 かおる (集中治療室)	委員★	田中 秀樹 (3 B病棟)
委員★	菅原 早苗 (4 A病棟)	委員★	滝澤 佐織 (4 B病棟)
委員★	秋山 ゆかり (5 A病棟)	委員★	羽二生 朱美 (6 B病棟)
委員★	勝亦 由美 (7 B病棟)	委員★	玉舟 正弥 (病院経営課)
委員★	深澤 公保 (病院総務課)	委員★	中川 貴裕 (病院総務課)
委員★	寺田 和子 (医事課)	委員★	島田 英介 (医事課)

委員	渡辺 野利江 (医事課地域連携室)	委員★	田中 稔 (医療安全対策室)
委員★	増田 満伯 (感染対策室)	事務局	木内 啓人 (病院経営課)

(2) 定例会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	25名 (★は定例会委員を兼務)		

2 開催回数

- (1) 全体会：2回（8月、12月）
- (2) 定例会：10回（月1回（全体会開催月を除く）、第3火曜日）

3 平成29年度の実績

- (1) 病院機能評価受審に向けた取組
- (2) 待ち時間集計報告（毎月）
- (3) 患者さんアンケート調査の実施（7月11日～14日）
- (4) 職員満足度調査の実施（10月20日～11月22日）
- (5) チーム医療評価の実施
- (6) 基本スケジュールの裏面活用
- (7) 富士市立中央病院勤務医の負担軽減に資する計画、看護師の負担軽減及び処遇の改善計画の改正
- (8) 部署別年度目標の管理

4 来年度の課題

病院機能評価受審に向け、自己評価調書の全項目をA評価で提出できるように改善活動を進める。また、9月の訪問審査時に日頃の取組が適切に説明できるように、病院全体で準備を行う。

(文責 伊藤 すみ子)

■NST委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	渡辺 野利江 (地域連携室)
委員	辻野 大助 (内科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	市原 恒平 (外科)	委員	松岡 諒 (小児科)
委員	廣津 竜也 (脳神経外科)	委員	佐野 僚子 (臨床検査科)
委員	三澤 延司 (薬剤科)	委員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	望月 唯奈 (栄養科)	委員	田中 弘美 (リハビリテーション科)
委員	梅原 健人 (リハビリテーション科)	委員	長橋 あゆみ (医療技術科)
委員	柘植 範子 (外来C)	委員	小野田 智恵子 (3B病棟)
委員	大井 洋子 (4A病棟)	委員	芳野 由規子 (7A病棟)
委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)	委員	井出 悦子 (5A病棟)
ワグナーバー	平川 正彦 (形成外科)	事務局	杉山 裕亮 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

2 開催回数

11回 (毎月1回、第3木曜日。8月は除く)

3 平成29年度の取組実績

①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム (褥瘡対策委員会) の3チームが日々活動しており、月に1度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

〔栄養評価・病院食改善チーム〕

- ・毎週火曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

平成29年度 NST 回診 延べ460人 月平均38.3人

〔摂食嚥下口腔ケアチーム〕

- ・毎月第2木曜日、第4水曜日に回診を行っている。月に1度勉強会を行っている。

平成29年度回診 延べ31人 月平均2.6人

[褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）]

※褥瘡対策委員会のページで報告

②全職員対象のNST 勉強会の開催

開催日	内 容	講 師	参加者
H29. 6. 7	栄養評価の方法について	外科 坪井 一人医師	78 名
H29. 6. 28	褥瘡対策における経腸栄養の選択	大塚製薬（ウェブセミナー）	52 名
H29. 9. 6	周術期の栄養管理について	外科 市原 恒平医師	76 名
H29. 10. 23	経腸栄養実施時における合併症予防について	キューピー株式会社	69 名
H29. 11. 29	糖尿患者の栄養管理について	内科 湊 聡一郎医師	59 名
H30. 2. 7	毎日のケアからできる誤嚥性肺炎予防	リハビリテーション科 田中 弘美 言語聴覚士 リハビリテーション科 梅原 健人 理学療法士	86 名

③研修会への参加

平成 29 年 12 月 16 日（土）・17 日（日）に開催された日本静脈経腸栄養学会 2017 年度 首都圏地区 TNT 研修会に 1 名の医師が参加し、栄養サポートチーム加算に係る専門資格を取得した。

また、平成 29 年 10 月 17 日（火）～平成 30 年 1 月 9 日（火）の期間に、NST 教育認定施設である静岡市立清水病院で 3 名が 12 日間（計 44 時間）の研修を受け、栄養サポートチーム加算に係る研修を修了した。

更に 1 名が平成 29 年 11 月 5 日（日）に NST 専門療法士の試験に合格し資格を取得した。

4 来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続き NST 勉強会の開催を行っていききたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、NST 専門療法士資格取得者を増員していききたい。

（文責 坪井 一人）

■輸血療法委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長(※)	長峰 誠一郎 (臨床検査科)
委員	田口 真吾 (心臓血管外科)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	谷田部 沙織 (外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	廣津 竜也 (脳神経外科)
委員	遠藤 里花 (6 A病棟)	委員	東川 真理 (5 B病棟)
委員	松田 祐平 (薬剤科)	委員	齋藤 智恵美 (医事課)
委員	大野 真一 (臨床検査科)	外部委員	浅田 哲哉 (日本赤十字社)

(※)事務局 長峰 誠一郎 (臨床検査科)

2 開催回数

6回 (隔月、第3火曜日)

3 平成29年度の取組実績

- ・輸血管管理料 I、適正使用加算を維持した。
- ・血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告した。
- ・輸血業務手順書を改訂した。
- ・輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法を検討した。
- ・新人看護師研修にて講義を行った。
- ・輸血後感染症検査実施率の推移を集計、報告した。
- ・輸血細胞治療学会の認証：I&A 施設認定を更新した。

血液製剤使用量の推移

種別	単位	27年度	28年度	29年度	平成29年度
赤血球製剤	単位	5,536	6,189	6,899	F/M比=0.28 (※)
凍結血漿	単位	1,119	2,090	2,180	A/M比=1.14 (※)
血小板製剤	単位	6,640	7,710	11,000	
アルブミン(A)	g	27,400	28,463	25,233	

※輸血管管理料 I、輸血適正使用加算の条件は F/M : 0.54 未満、A/M : 2.0 未満であること

4 来年度の課題

- ①血液製剤の適正使用を推進する。
- ②医師へ正しい業務手順を周知する。
- ③輸血管管理料 I、適正使用加算を維持する。
- ④病院機能評価で「S」判定を取得する。

(文責 藤井 常宏)

■医療安全管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (医療安全管理統括責任者)	副委員長	田中 稔 (医療安全対策室長)
委員	良元 和久 (手術室運営委員長)	委員	藤井 常宏 (救急室運営委員長)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	松山 早登美 (リスク担当看護長)
委員	井出 宣孝 (薬剤科長兼中央放射線科技師長)	委員	落合 敏明 (医薬品安全管理責任者)
委員	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)	委員	石川 隆之 (臨床検査科技師長)
委員	渡辺 利英 (病院総務課長)	委員	森 育洋 (医事課長)
事務局	医療安全対策室		

リスクマネジメント部会

役職	氏名	役職	氏名
部会長	田中 稔 (医療安全対策室長)	副部会長	遠藤 泰彦 (病理診断科)
部員	11名		

医薬品部会

役職	氏名	役職	氏名
部会長	落合 敏明 (医薬品安全管理責任者)	部員	7名

医療機器部会

役職	氏名	役職	氏名
部会長	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)	副部会長	池谷 幸一 (中央放射線科)
部員	8名		

2 開催回数

- (1) 医療安全管理委員会 12回 (毎月1回、最終金曜日)
- (2) リスクマネジメント部会 12回 (毎月1回、第3木曜日)
 - ・薬剤・製剤グループ 12回 (毎月1回、第2水曜日)
 - ・転倒転落グループ 12回 (毎月1回、第2火曜日)
 - ・5Sグループ 12回 (毎月1回、第1水曜日)
- (3) 医薬品部会 1回
- (4) 医療機器部会 5回

3 平成29年度の取組実績

- (1) 心肺蘇生講習会開催
120名に実施した

(2) リスクマネジメント部会

- ・RMたよりの発行 12回
- ・医療安全推進週間（平成29年11月19日～25日）「誤薬防止」をテーマに全職員に標語を募集し306作の応募があった。最優秀標語を11月中全職員が名札に付けることで医療安全の意識高揚に努めた
- ・医療安全研修
第1回「医師が語る事例から学ぶリスクマネジメント」3回開催 参加率56.4%
第2回「医療安全体制の現状と課題」 ICTとの共催 2回開催 参加率57.4%

(3) 医薬品部会

- ・研修会 1回
転倒・転落について（ふらつき・トイレ・薬剤）

(4) 医療機器部会

- ・医療機器安全使用のための講習会 2回
①呼吸器基礎知識・胸部画像について
②輸液ポンプ安全機能向上（新機種TE-281）について

4 来年度の課題

- ・院内心肺蘇生講習会を、AHA2015に沿ったものとして再度全職員に実施する
- ・院内全死亡例について診療経過を確認し、事故調査委員会開催を検討する
- ・院内医療機器を全機器登録に向けて継続する
- ・日常業務の問題解決のため医療安全カンファレンスの開催を検討する
- ・アレルギー入力率・画像確認率・病理診断確認率の100%をめざす

（文責 諸岡 暁）

■緩和ケア委員会

1 スタッフ

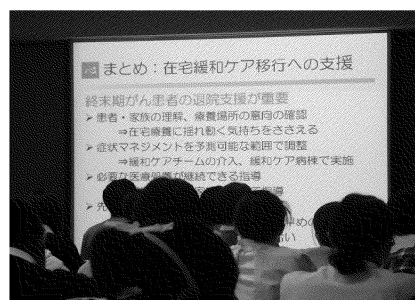
役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	齋藤 幸子（ICU）
委員	市原 恒平（外科）	委員	鈴木 崇公（産婦人科）
委員	外岡 雄二（精神神経科）	委員	川口 敬（薬剤科）
委員	中村 公美（リハビリテーション科）	委員	東川 真理（5 B病棟）
委員	村松 由貴子（外来）	委員	尾崎 悦子（3 B病棟）
委員	木野村 信子（6 A病棟）	委員	吉村 康恵（外来）
委員	江村 宏子（医事課・地域連携室）	事務局	岩垣 哲也（医事課・地域連携室）

2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）（カンファレンス及び病棟ラウンドは毎週）

3 平成29年度の取組実績

カンファレンス及び病棟ラウンドの充実のため、在宅診療医の参加を得て毎週実施した。また、「富士市緩和医療連携カンファレンス」を開催し、市内の在宅診療医や在宅医療を支える方々との症例検討や意見交換の場を設けた。静岡がんセンターで隔月に開催される「緩和ケア地域連携カンファレンス」に参加し、情報収集に努め連携を図った。院内への啓発とスキルアップ及び共通認識を持つことを目的とした勉強会では、講師を委員が務めたり在宅診療医を招いたりするなど工夫し毎月開催した。また、専門医師を迎えての講演会も院内外から多くの方の参加をいただいた。在宅療養においても緩和ケアニーズが増す中、このような取り組みにより連携強化を図ることができればと考えている。



〔緩和ケア勉強会の様子〕

4 来年度の課題

- ・緩和ケアマニュアルの周知
- ・カンファレンスの充実とスキルアップのための勉強会、講演会の開催
- ・必要な薬剤、医療器具の導入
- ・緩和ケアにおける地域との連携強化

（文責 梶本 徹也）

■広報委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	井出 正俊（歯科口腔外科）～8月
副委員長	矢田 大輔（産婦人科）9月～	委員	藤谷 暢子（眼科）
委員	鍋島 雄和（中央放射線科）	委員	山田 将史（リハビリテーション科）
委員	後藤 和美（薬剤科）～1月	委員	藤井 文音（薬剤科）2月～
委員	手老 真弓（臨床検査科）	委員	北島 美鈴（外来A）
委員	東川 真理（5B病棟）	委員	加藤 菜緒（病院総務課）
委員	岡本 功（医事課）	委員	露木 秀俊（医事課）
事務局	角入 あゆ美（病院経営課）		

2 開催回数

4回（6月、9月、12月、3月）

3 平成29年度の取組実績

①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成20年7月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年4回（4月、7月、10月、1月）、発行部数は92,000部で富士市内の全世帯に配布している。病院だより編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び疾患予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝えるため、掲載記事の選定や内容について議論を行った。また、病院だより第41号（平成30年4月20日発行）からリニューアルするための検討を行った。

②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを生かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し、主に更新内容やページ構成について確認・検討した。また、アクセシビリティに配慮したウェブサイトを再構築し、利用者のニーズに即した情報発信を迅速に行うことができるよう検討を重ね、平成30年1月17日にウェブサイトをリニューアル公開した。

4 来年度の課題

病院だよりでは、病診連携に関する記事や、健康や予防に関する情報を掲載していく。ウェブサイトについては、トップページ取り組み発信エリアの活用を検討し、効果的な情報発信に努める。病院だよりやウェブサイト以外の広報の仕方・手段についても検討する。

（文責 大沼 幹雄）

■食堂・売店検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	外山 卓矢（臨床検査科）
委員	澤口 信孝（中央放射線科）	委員	岩本 一徳（薬剤科）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	木内 啓人（病院経営課）
委員	池邊 貴子（売店職員）	委員	小川 美香（食堂職員）
事務局	中川 貴裕（病院総務課）	事務局	佐山 侑希（病院総務課）

2 開催回数

3回

3 平成 29 年度の実績

- ・ 食堂および売店メニューの検討
- ・ 食堂および売店の事業計画を審議し翌年度 1 年間の継続を承認
- ・ 売店をコンビニエンスストアにリニューアル化

4 来年度の課題

平成 30 年度も食堂・売店の運営や改善について検討を行い、利用者に良質なサービスを提供する施設となるよう取り組んでいく。

（文責 木村 哲夫）

■経営改革推進委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	落合 敏明（薬剤科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	野澤 里美（3C病棟）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	玉舟 正弥（病院経営課）		

2 開催回数

11回（毎月第4水曜日）

3 平成29年度の取組実績

①富士市立中央病院第二次中期経営改善計画の改訂

平成28年度に、第二次中期経営改善計画を基に、設定値を見直すとともに新たな設定値を加え「富士市立中央病院新改革プラン」を策定したことに伴い、第二次中期経営改善計画の改訂を行った。

②単年度事業計画書について

平成26年度からの5カ年計画として策定した第二次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、平成29年度事業計画書を作成し院内周知するとともに、平成28年度事業計画の自己評価を行った。

4 来年度の課題

富士市立中央病院新改革プラン及び第二次中期経営改善計画に基づく、平成29年度事業計画の自己評価及び平成30年度事業計画の各事業の進行管理を行うとともに、富士市立中央病院経営懇話会による外部評価を実施し、結果を公表する。

また、第二次中期経営改善計画の最終年度となるため、第三次中期経営改善計画の策定を行う。

（文責 後藤 博一）

■化学療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	佐伯 千里 (消化器内科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	川口 敬 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	北島 美鈴 (外来)
委員	佐野 まり子 (外来B)	委員	小林 宏美 (6 A病棟)
委員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)	委員	渡辺 まゆみ (3 B病棟)
委員	勝亦 由美 (7 B病棟)	委員	小林 二十美 (5 A病棟)
委員	遠藤 喜巳子 (5 B病棟)	事務局	岡本 功 (医事課)
事務局	杉山 彩 (医事課)		

2 開催回数

15回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 12回 臨時開催 3回

3 平成29年度の取組実績

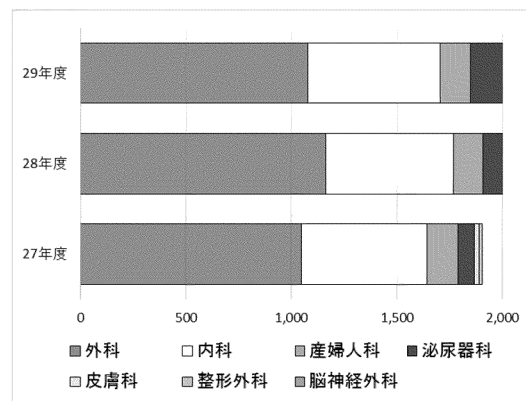
年間を通して新規レジメンの検討・承認、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度16種類の検討・承認を行った。また、抗がん剤における曝露対策についてのマニュアル追加、オプジーボ導入に向けての外部講師を招いた研修会と各科勉強会の開催、免疫チェックポイント阻害薬運用手順の作成、術後補助療法におけるTS-1服薬指導の運用手順の作成、レジメン集について検討を行った。

4 来年度の課題

免疫チェックポイント阻害薬の使用開始、地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査とレジメン集の整備、がんセンターとの連携、副作用対策を検討課題とする。

科別レジメン適用件数

診療科	27年度	28年度	29年度
外科	1,048	1,164	1,079
内科	596	606	625
産婦人科	145	137	146
泌尿器科	79	124	177
皮膚科	24	16	23
整形外科	13	1	1
脳神経外科		10	33
総数	1,905	2,058	2,084



(文責 藤井 常宏)

■診療材料検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	嶺 崇文 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	松田 佑平 (薬剤科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	勝間田 賢 (臨床工学科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	小林 由美 (手術室)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	増田 満伯 (感染対策室)	委員	宇佐美 雄二 (病院経営課)
委員	杉山 彩 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	仲澤 実加 (病院総務課)	事務局	佐山 侑希 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2月曜日)

3 平成29年度の取組実績

①新規診療材料等の採択に関する検討

- ・新規採用 28件 (規格違い商品含む)

②SPD委託業者により価格削減提案された商品採用の承認 等

- ・切替提案商品 (規格違い含む) 94件、現行品削減件数 737件
- ・年間削減試算額 1,125万円

4 来年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

(文責 鈴木 康之)

■ ICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科)	副委員長	野田 靖人 (脳神経外科)
副委員長	齋藤 幸子 (集中治療室)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	坪井 一人 (外科)	委員	高橋 康人 (腎臓内科)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	委員	渡邊 かおる (集中治療室)
委員	平元 いずみ (集中治療室)	委員	野澤 治 (集中治療室)
委員	渡邊 葉子 (集中治療室)	事務局	杉山 裕亮 (医事課)
事務局	杉山 彩 (医事課)		

2 開催回数

5回 (第3月曜日)

3 平成29年度の取組実績

(1) ICUの運営

満床時の対応について、高額医療機器申請について、TB(疑い)患者のICU受け入れについて、平成30年度診療報酬改定に伴うSOFAスコアの記録について、ICU入室中の患者に対する疾患別リハビリテーションの介入について、などの検討を行った。

(2) 統計報告

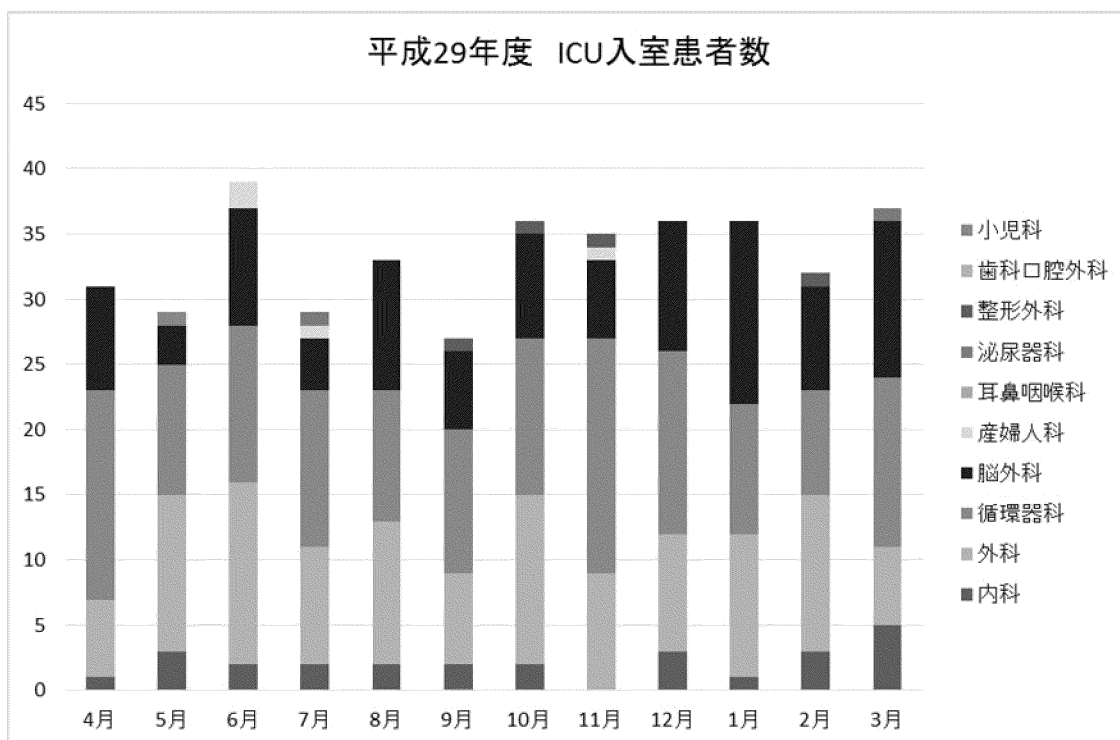
【表1】ICU科別月別入室患者数

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

【表1】ICU科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	1	3	2	2	2	2	2		3	1	3	5	26
外科	6	12	14	9	11	7	13	9	9	11	12	6	119
循環器科	16	10	12	12	10	11	12	18	14	10	8	13	146
脳外科	8	3	9	4	10	6	8	6	10	14	8	12	98
産婦人科			2	1				1					4
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科				1								1	2
整形外科						1	1	1			1		4
歯科口腔外科													0
小児科		1											1
月合計	31	29	39	29	33	27	36	35	36	36	32	37	400



単位:人

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF	3	1	2	1	4	5	3	3	2	3	1	10	38
PMX													
PE													
月合計	3	1	2	1	4	5	3	3	2	3	1	10	38

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	5	1	2	3	2	2	3	3	3	4	3	8	39
PCPS	0	0	2	0	1	0	0	2	0	2	0	1	8
月合計	5	1	4	3	3	2	3	5	3	6	3	9	47

4 来年度の課題

セントラルモニターの更新について。

(文責 阪本 宏志)

■医療事故調査委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	内科系医師 (その都度指名)
委員	外科系医師 (その都度指名)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)
事務局	深澤 公保 (病院総務課)		

2 開催回数

9回 (案件により随時開催)

3 平成 29 年度の実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を9回開催し、9件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直しを要請した。

4 来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組む。引続き一定程度以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

(文責 諸岡 暁)

■医療事故対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	田中 稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
事務局	深澤 公保（病院総務課）		

2 開催回数

なし（案件により随時開催）

3 平成 29 年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成 21 年 9 月に設置された。

平成 29 年度は、委員会を開催すべき医療事故はなかった。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責 柏木 秀幸）

■病院情報システム運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	鈴木 崇公 (産婦人科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	木元 慎一郎 (薬剤科)	委員	長峰 誠一郎 (臨床検査科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	幾島 邦人 (リハビリテーション科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)	委員	柘植 範子 (外来C)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	杉山 裕亮 (医事課)
事務局	若杉 泰之 (医事課)	事務局	露木 秀俊 (医事課)

2 開催回数

12回 (月1回、第1月曜日)

3 平成29年度の取組実績

- ・回診時における放射線画像参照について審議
- ・看護記録の代行入力について審議
- ・処方箋を選んだ際に背面に隠れてしまう現象について審議
- ・化学療法での服薬指導の入力方法について審議
- ・情報セキュリティ研修の実施
- ・リモートカルテについての報告
- ・電子カルテ更新後の使用状況アンケートの実施

4 来年度の課題

電子カルテシステム及びその他の部門システムの安定した稼働を目指す。また、端末の更新を行い、院内の医療情報環境整備に努めていく。

(文責 良元 和久)

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	高橋 康人 (腎内科)
委員	北島 美鈴 (外来A)	委員	齋藤 幸子 (集中治療室)
委員	田中 慶子 (外来A)	委員	齋藤 薫美 (外来A)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	事務局	露木 秀俊 (医事課)
事務局	杉山 裕亮 (医事課)		

2 開催回数

12回 (毎月1回、第3水曜日)

3 平成29年度の取組実績

- ・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告 (表1)、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・透析機器を含む各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・災害時における拠点病院としての役割や透析患者への対応について確認を行った。
- ・透析部門システムが導入され、運用について確認を行った。

血液透析施行患者数	343人	(血液透析施行件数 2,868件)
腹膜透析診療患者数 (年度末)	13人	
うち血液透析+腹膜透析併用療法患者数	1人	
維持透析導入患者数	99人	(血液透析 99人、腹膜透析 0人)
急性血液浄化施行患者数	47人	(94件)
うち持続血液濾過透析	38人	(44件)
エンドトキシン吸着療法	2人	(3件)
二重濾過血漿交換	1人	(12件)
血漿交換	4人	(19件)
白血球除去療法	2人	(16件)

表1－透析室水質管理表（平成29年度）

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4月	0.01895	0	0.00057	1
5月	0.01182	0	0.00096	0
6月	0.00276	0	0.00057	0
7月	0.00387	0	0.00076	0
8月	0.00582	0	0.00057	0
9月	0.00453	0	0.00057	0
10月	0.00563	0	0.00057	0
11月	0.00575	0	0.00056	0
12月	0.00622	0	0.00057	0
1月	0.00584	0	0.00058	0
2月	0.00575	0	0.00057	0
3月	0.00553	0	0.00076	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4月	0.00057	0	0.00057	0	① ②
5月	0.00081	0	0.00720	0	③ ④
6月	0.00057	0	0.00057	0	⑤ ⑥
7月	0.00063	0	0.00059	0	⑦ ⑧
8月	0.00057	0	0.00057	0	⑨ ⑩
9月	0.00049	0	0.00049	0	① ②
10月	0.00057	0	0.00057	0	③ ④
11月	0.00057	0	0.00063	0	⑤ ⑥
12月	0.00057	0	0.00057	0	⑦ ⑧
1月	0.00058	0	0.00057	0	⑨ ⑩
2月	0.00057	0	0.00056	0	① ②
3月	0.00076	0	0.00076	0	③ ④

4 来年度の課題

- ・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。
- ・新規導入患者の増加への対応について検討していく。

（文責 高橋 康人）

■周産期医療機器管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	松岡 諒 (小児科医長)
委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)	委員	森本 康江 (4 B病棟)
委員	佐山 侑希 (病院総務課)	委員	勝間田 賢 (臨床工学科)
事務局	臨床工学科		

2 開催回数

2回

3 平成 29 年度の取組実績

- 1) 周産期に係わる医療機器 (主に保育器、分娩監視装置) の更新計画に基づいて医療機器の申請を行った。
- 2) 周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。
- 3) 手術室用インファントウォーマー 1 台購入。

4 来年度の課題

- 1) 委員会から要望した機器は、病院のご理解を頂き徐々に整備されている。今後も引き続き「選ばれる病院」方針に沿った、医療機器の適正な申請、運用を行っていききたい。
- 2) 周産期医療の安心・安全な提供ができるように委員会活動を行っていききたい。

(文責 鈴木 康之)

■地域連携運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	加藤 努 (整形外科)
委員	井出 宣孝 (中央放射線科)	委員	伊藤 すみ子 (看護部長室)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	渡辺 野利江 (医事課・地域連携室)		
事務局	岩垣 哲也 (医事課・地域連携室)	事務局	加藤 千代美 (医事課・地域連携室)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第3木曜日)

3 平成29年度の取組実績

- ・紹介率及び逆紹介率向上に取り組み、「地域医療支援病院」の承認を得た。
- ・「地域がん診療病院」として要件の充足やがん患者サロンの充実を図った。また、静岡県立静岡がんセンターとの交流に積極的に取り組んだ。
- ・富士市医師会と「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」を共同開催し、情報交換や症例検討を行った。
- ・市内の病院の地域連携を担当する部署と「富士市病院連携担当者会議」を開催し、情報共有を行い、定期的に開催していくこととした。
- ・近隣医師会との病診連携をより推進するため、医師の顔写真入り紹介冊子を刊行し配付した。
- ・地域医療連携システム「Human Bridge」により紹介状に対する返書を管理し、返書率の向上を図った。
- ・ふじのくにバーチャルメガホスピタル「ふじのくにねっと」について、開示件数、参照件数の増加を図った。また、更新を見据えた検討を行い、利用継続とした。
- ・地域連携の課題などにスポットをあてたWeb研修会を開催した。
- ・市内施設の開所等に伴う協力医療機関としての依頼案件の検討と承認。

4 来年度の課題

- ・「地域医療支援病院」として紹介率及び逆紹介率の維持、向上
- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の年間2回の開催
- ・「富士市病院連携担当者会議」の年間2回の開催
- ・紹介患者予約枠の稼働率及び返書率の向上
- ・医師紹介冊子(平成30年度版)の発行
- ・「連携安心カード」、「ふじのくにねっと」の運用と普及啓発

(文責 笠井 健司)

■患者サービス向上委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	副委員長	加藤 努(整形外科)
委員	外岡 雄二(精神神経科)	委員	内野 有子(臨床検査科)～10月
委員	柏木 里沙子(臨床検査科)11月～	委員	望月 保子(薬剤科)
委員	大石 悦子(副看護部長)	委員	勝山 弘子(7A病棟)
委員	田島 真弓(外来D)	委員	柘植 範子(外来C)
委員	渡邊 裕子(地域連携室)	委員	金森 清美(3C病棟)
委員	小澤 花子(外来A)	委員	市川 恵未(病院総務課)
委員	川口 愛美(医事課)	委員	斉藤 美智代(ニチイ)
委員	千須和 恵(ニチイ)	事務局	角入 あゆ美(病院経営課)

2 開催回数

12回(毎月1回、第4木曜日)

3 平成29年度の取組実績

- (1) 毎月開催される管理会議、院内連絡会議及び医局会におけるお礼状の報告
- (2) あいさつ運動(5月、9月、1月の各月3日間)
- (3) 院内掲示物巡回(6月22日)
- (4) 正面玄関南側花壇における花苗の植え替え(6月と11月に富士市花の会の協力を得て実施)
- (5) 正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え(7月、10月)
- (6) 院内ギャラリーの運営

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
4月	カラーズギフト作品展	中村 早予子	パステル画
5月	ききょうの郷デイケア展示会	介護老人保健施設 ききょうの郷	ぬり絵、きめこみ等
6月	快明堂クラブ展示会	快明堂クラブ	絵画、 プランティングフラワー
7月	フォトクラブ天間 「院内ギャラリー」展	フォトクラブ天間	写真
8月	色鉛筆画展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
9月	似顔絵	井芹 通	似顔絵

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
10月	内藤恵子 パステル&点描アート	アトリエK 内藤 恵子	パステル画、点描画
11月	伊藤 晴美 絵画展	伊藤 晴美	絵画
12月	悠久の地 シリア写真展	赤池 正裕	写真
1月	第26回 MOA美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児童作 品展実行委員会	絵画・書写
2月	室伏 淳史 写真展	室伏 淳史	写真
3月	色鉛筆画同好会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画

(7) 院内コンサート

- ・富士川ウインドアンサンブル（7月7日）
- ・元吉原ウインドアンサンブル（12月21日）

(8) 接遇研修 患者さんと良好な関係を築くためのポイント（11月30日）

講師：テルモ株式会社 顧問 松村啓史 先生

(9) 院内で気持ちよく挨拶をするための検討・実施

(10) 1階公衆電話ブースへの意見箱設置

(11) 2階外来への自動販売機設置とそれに伴う授乳室の改修

(12) 西側搬入口へのかさ袋スタンドの設置

(13) 保険証確認窓口の誘導テープの変更

(14) 院内掲示物の掲示期限の確認依頼

(15) 音楽を用いた気持ちを和らげる取り組みに関する検討

(16) 廃棄消防ホースを利用した雨傘ホルダー活用に関する検討

4 来年度の課題

来年度も引き続き、お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、花壇の維持管理、院内ギャラリーにおける展示会開催に取り組む。

院内コンサートについては、患者さんに快適に楽しんでもらうと同時に、演奏者にとっても演奏しやすい環境となるよう調整し、配慮していく。接遇研修については、患者さんアンケート結果と職員満足度調査結果をもとに内容や回数を検討し、より効果的な研修となるよう努める。

(文責 伊藤 すみ子)

■学術活動推進委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	井出 正俊 (医局長: 歯科口腔外科) ~8月
副委員長	矢田 大輔 (医局長: 産婦人科) 9月~	委員	坪井 一人 (外科)
委員	大石 悦子 (副看護部長)	委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)
委員	鈴木 和訓 (中央放射線科)	委員	柴田 貴子 (薬剤科)
委員	角入 あゆ美 (病院経営課)	委員	岩垣 哲也 (医事課 (地域連携室))
委員	露木 秀俊 (医事課)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

2 開催回数

11回 (毎月1回、第3水曜日)

3 平成29年度の取組実績

学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

- ・【第32回富士シンポジウム】平成29年6月1日(木) 大会議室/参加者98名
富士市医師会との共催事業として、中央病院から3題、医師会から2題の計5題の発表に対し、それぞれ指定討論方式でシンポジウムを開催した
- ・【第16回市民公開講座】平成29年6月23日(金) 大会議室/参加者112名
「中央病院発! 知っておきたい脳・神経の病気や治療」と題して、河野神経内科部長より「パーキンソン病とパーキンソン症候群」、武井脳神経外科医長より「切らずに治すー脳血管内治療ー」の内容で講座を行った
- ・【第33回院内学術集会】平成29年8月25日(金) 大会議室/参加者110名
2部構成として、第1部では一般演題発表(診療部・診療技術部・看護部から3題ずつの計9演題)、第2部では「超高齢社会と中央病院」をテーマにシンポジウムを行った
- ・【第17回市民公開講座】平成29年9月28日(木) ロゼシアター/参加者198名
東京慈恵会医科大学より外科学講座統括責任者の大木隆生教授を招き、「閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤などの血管病治療の最前線」の内容で講座を行った
- ・【平成28年度病院年報】の発行
- ・【学術雑誌Vol. 34, 2017】の発行

4 来年度の課題

- ・主要事業として定着した「富士シンポジウム」、「市民公開講座」、「院内学術集会」に関しては、アンケート結果や頂いた意見を集約し、検討を重ね、更なる向上を目指す
- ・市民公開講座は、市民のニーズに対応すべく、調査・分析を行い、健康管理に役立つ情報を積極的に発信していく
- ・院内学術集会は、診療部・診療技術部・看護部からの一般演題発表に留まらず、院内全体で取り組むべき課題等に対するシンポジウムを企画・立案し実行する
- ・病院年報についても、単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく

(文責 笠井 健司)

■病棟委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	河野 優（神経内科）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	橋本 典生（呼吸器内科）
委員	伊藤 公博（消化器内科）	委員	高橋 康人（腎臓内科）
委員	山田 崇之（循環器内科）	委員	織井 恒安（心臓血管外科）～12月
委員	田口 真吾（心臓血管外科）1月～	委員	松岡 諒（小児科）
委員	良元 和久（手術管理科・外科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	仲 謙（形成外科）	委員	野田 靖人（脳神経外科）
委員	森 ナオミ（皮膚科）	委員	松木 翔太郎（産婦人科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	黒田 健斗（耳鼻咽喉科）
委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	小俣 朋子（栄養科）	委員	深澤 史朗（リハビリテーション科）
委員	落合 敏明（薬剤科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	鈴木 早苗（4 A病棟）	委員	勝又 千壽子（5 A病棟）
委員	齋藤 正美（6 B病棟）	委員	植松 和子（7 B病棟）
委員	田中 慶子（外来A）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	木内 啓人（病院経営課）		

2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）

3 平成29年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき次年度の方針を検討した。平成29年度の病床利用率は昨年度よりも若干下がったが、平成26年度や平成27年度に比べると高く、特に近隣病院の診療科縮小の影響から特定の診療科が高い結果となった。また、冬場の満床回避策として産科病棟である4 A病棟の空床利用を始めたことで、救急患者受入れ停止を最小限にとどめるとともに、病床利用率の向上につなげることができた。

病棟業務では、効率化と安全面の向上を目的にインスリンの運用を見直すこととし、委員会内にワーキンググループを設置して検討を行った。

4 来年度の課題

限られた病床を有効に使う観点から、4 A病棟の利用について見直しを行い、入院患者の受入れがよりスムーズにできるように環境を整える。

（文責 後藤 博一）

■就労環境改善委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	小田 彩子（産婦人科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）
委員	酒井 理香（中央放射線科）	委員	北島 美鈴（外来）
委員	野澤 里美（3C病棟）	委員	市川 恵未（病院総務課）
事務局	鈴木 裕子（病院総務課）		

2 開催回数

4回（うち1回は講座）

3 平成29年度の取組実績

仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境の整備について等、検討を実施。

【委員会】

3回実施：平成29年6月14日（水）、11月27日（月）、平成30年3月29日（木）

内 容：ふじのくに女性医師支援センターについて、キャリア支援シンポジウムへの参加について、就労環境改善委員会の歩みと今後について、等

【講演会】

日 時：平成30年1月31日（水）17:15～18:15

参加人数：66名（託児利用者有）

内 容：健康生活に役立つ良質な睡眠のとり方～眠る門には福来る～

講 師：田森 雄治 氏（TUK 東洋羽毛 睡眠健康指導士）

目 的：睡眠トラブルは、仕事や生活に大きな悪い影響を及ぼすため、正しい情報を得て自身の睡眠習慣を見直し、睡眠の大切さを再認識すること。

【キャリア支援シンポジウムへの参加】

日 時：平成30年1月27日（土）ホテルアソシア静岡

内 容：「医師のキャリアパスとワーク・ライフ・バランス」について、当院の取組を発表／発表者 院長 柏木 秀幸

4 来年度の課題

就労環境改善委員会の業務内容は勤務環境改善委員会（新設）に引き継いでいくため、解散することとする。

（文責 伊藤 すみ子）

■外来委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	藤谷 暢子 (眼科)
委 員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委 員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委 員	佐伯 千里 (消化器内科)	委 員	三川 秀文 (循環器内科)
委 員	秋山 直枝 (小児科)	委 員	梶本 徹也 (外科)
委 員	加藤 努 (整形外科)	委 員	西村 礼司 (形成外科)
委 員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委 員	森 ナオミ (皮膚科)
委 員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委 員	長谷川 瑛 (産婦人科)
委 員	黒田 健斗 (耳鼻咽喉科)	委 員	道本 顕吉 (放射線科)
委 員	井上 恒佳 (麻酔科)	委 員	外岡 雄二 (精神神経科)
委 員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委 員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委 員	北島 美鈴 (外来看護長)	委 員	佐野 まり子 (外来B)
委 員	田島 眞弓 (外来D)	委 員	白戸 幸子 (外来C)
委 員	鈴木 英昭 (臨床検査科)	委 員	高木 省一 (中央放射線科)
委 員	勝間田 賢 (臨床工学科)	委 員	深澤 史朗 (リハビリテーション科)
委 員	加藤 寛史 (薬剤科)	委 員	芹澤 広樹 (病院経営課)
委 員	渡辺 利英 (病院総務課)	委 員	森 育洋 (医事課)
委 員	渡辺 野利江 (医事課(地域連携室))	事務局	寺田 和子 (医事課)
事務局	岡本 功 (医事課)		

2 開催回数

12回

3 平成29年度の取組実績

①地域医療支援病院の承認に伴う特別初診料等の改定について

- ・当院は静岡県知事より、平成29年8月29日付けで地域医療支援病院に承認された。これに伴い、法律に基づき、紹介状を持参せずに来院した患者さんに求める特別初診料等の取扱いについて検討し、予約可能期間の統一を図る等、算定に係る詳細を取り決め、院内全体に周知を図り運用を開始した。
- ・来院される方々に特別初診料・特別再診料について周知するため、配布する「チラシ」や掲示物の内容等を協議し、『広報ふじ』、『病院ウェブサイト』、『病院だより』へ掲載するなど、事前に広く広報活動を行い、受付窓口等で混乱が起きないように努めた。

- ・特別初診料の算定開始後、各部門から挙げられた疑問や問題点に対し、Q&A形式のマニュアルを作成した。

②平成 30 年度診療報酬改定に伴う新設の加算について

- ・診療報酬改定に伴い、外来における算定可能な新設の加算について提案し、外来の現状確認や対象患者の把握、算定までの運用を協議し、外来委員会から加算についての周知及び算定案を提示できるよう準備した。

③外国人患者への対応について

- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、外国人患者の受け入れ増加が予想される。

このため、言語等の問題点と課題を抽出すると共に、タブレット端末を使用した多言語通訳のデモを行い、今後の外国人患者の対応策として多言語医療通訳タブレットの導入の必要性について検証した。

④待ち時間対策について

- ・外来待ち時間の短縮を図るため、各科診療部に対して、「待ち時間対策アンケート」を実施し、実態調査及び課題の把握に努めた。

4 来年度の課題

- ①外来部門に係るあらゆる問題、課題を取り上げ、解決を図る。
- ②地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化に努め、地域医療の質向上を図る。
- ③地域医療支援病院の役割について理解を深め、紹介率・逆紹介率の向上に努める。
- ④これまで、病院機能改善委員会で課題としていた「外来患者の待ち時間対策」について、今後は当委員会が主体となり、医師に対して実施した「待ち時間対策アンケート」等の意見を基に、診療科ごとの現状を検証し協議していく。

(文責 笠井 健司)

■放射線安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	井出 宣孝（中央放射線科）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	清水 則雄（中央放射線科）	委員	遠藤 一弘（中央放射線科）
委員	岡田 和教（中央放射線科）	委員	秋田 真弓（中央放射線科）
委員	神田 直樹（中央放射線科）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
委員	中川 貴裕（病院総務課）	委員	深澤 公保（病院総務課）

- ・安全管理責任者：井出 宣孝
- ・放射線取扱主任者：遠藤 一弘
- ・放射線取扱主任者（安全管理担当者）：岡田 和教、秋田 真弓、神田 直樹
- ・管理区域担当者：清水 則雄
- ・健康管理医：藤井 常宏
- ・施設管理責任者：渡辺 利英
- ・施設管理担当者：中川 貴裕
- ・法令担当者：深澤 公保

2 開催回数

6回

3 平成 29 年度の取組実績

- ・放射線障害防止法および予防規程により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回 / 年
健康診断	2回 / 年
環境測定	2回 / 年
自主点検（放射線治療室、RI 室、X線撮影装置）	2回 / 年
教育訓練（定期）	2回 / 年
教育訓練（新規）	7回 / 年
放射線管理状況報告書（提出）	1回 / 年
保健所立入検査	1回 / 年
RI 使用予定届（提出）	1回 / 年

4 来年度の課題

保健所立入り検査結果に対する検討を行ない、改善に努める。

指摘指導・指導事項・文章指導事項・口頭指導事項なし。助言については、以下のとおり。

- ・ 21 室撮影室内のカテーテル保管箱は、地震等で転倒する恐れがあるので、固定することが望ましい。
- ・ 6 室の更衣室内に、使用中の旨を表す表示板を設置すること。その際には、電源と連動して点灯すること。
- ・ 環境測定での測定点 6 室－ 8 等の測定値が高値である。測定器を覆う鉛当量の増量に努めること。
- ・ 「医療機器の安全使用のための研修」を医療機器安全管理責任者に報告すること。
また医療機器安全管理責任者は、医療安全委員会に報告することが望ましい。
- ・ 教育訓練を実施した際には、使用した資料を参加名簿とともに添付しておくこと。

(文責 諸岡 暁)

■災害対策委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	平川 正彦（形成外科）～7月	委員	津嶋 友央（皮膚科）8月～
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	遠藤 泰彦（病理診断科）
委員	高橋 康人（腎臓内科）	委員	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	落合 敏明（薬剤科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	白戸 幸子（外来C）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
委員	中川 貴裕（病院総務課）	委員	武吉 勇喜（警備室）
外部委員	武田 浩（※）		
事務局	深澤 公保（病院総務課）	事務局	秋山 英希（病院総務課）

（※）水道技術管理者・水道工務課長

2 開催回数

12回（毎月第1火曜日）

3 平成29年度の取組実績

（1）災害対策訓練の実施

- ・救護所訓練（参加者23名）

11月25日（土）、外部講師を招聘し、院内講師とともに診療部と看護部職員を対象とした救護所訓練を実施した。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた外傷初期診療訓練、看護部は2次トリアージ訓練（理論と実習）を行った。

- ・院内災害対策訓練（参加者87名）

平成30年1月20日（土）、富士市立中央病院規定集「災害対策本部組織表（甲編成）」に基づく班別に、災害発生後、通常診療体制から災害医療体制に切り替えるまでの2時間の行動を検証する訓練を行った。

（2）災害対策用資機材の配備

- ・ポータブル発電機（インバータ付）【6基】

非常用発電機を含む全ての電源供給が途絶えた際、外来や病棟等で生命維持装置（人工呼吸器や閉鎖式保育器など）を使用している患者に対し、救助を待つまでの間、機器を止めることなく使用することを想定し、精密機器の稼動に適したインバータ付のポータブル発電機に更新した。

- ・デジタル簡易無線通信システム（携帯型無線機）【5台】
既存の通信機器（内線電話、PHSおよび、院内放送）に加え、災害発生時の通信手段強化を目的に新規配備した。
 - ・レサシアンシミュレータ【1基】
シミュレータを用いた災害対策訓練の強化を目的に増設した。
- (3) 職員・帰宅困難者用備蓄食料の配備（入院患者用の備蓄食料は配備中）
- ・サバイバルフーズ【24ケース／1,440食】
内訳：①ファミリーセット（チキンシチュー&クラッカー） ×12ケース
②ファミリーセット（野菜シチュー&クラッカー） ×12ケース
- ※備蓄食料の見直しを行い、平成28年度より6ヵ年計画で25年保管可能な「サバイバルフーズ」の配備を行っている（2年目）
- (4) DMATの活動・強化・育成
- ・毎月第2木曜日の15時より部会を開催
 - ・組織の拡充として、隊員3名（静岡DMATリミテッド）の増員
 - ・平成29年度総合防災訓練（政府訓練）【7月29日（土）・三重、大阪】への参加
 - ・平成29年度中部ブロック実動訓練【10月8日（日）－9日（月・祝）・岐阜】への参加
 - ・平成29年度第1回中部ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修及び第3回中部ブロックDMAT技能維持研修【10月21日（土）－22日（日）・愛知】の受講
 - ・院内救護所訓練【11月27日（日）・中央病院】への協力参加
 - ・平成29年度第4回中部ブロックDMAT登録者技能維持研修【平成30年1月9日（火）－10日（水）・静岡】の受講
 - ・地震対策オペレーション2018（大規模図上訓練）【平成30年1月17日（水）・静岡県庁】への参加
 - ・医療法人社団秀峰会 川村病院エマルゴ訓練【平成30年1月27日（日）・中央病院】への協力参加
 - ・平成29年度第2回静岡DMATロジスティクス研修【平成30年2月18日（日）・静岡】の受講
 - ・富士市医師会救護所訓練【平成30年3月26日（月）・医師会館】への協力参加

4 来年度の課題

引き続き、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、災害対策訓練の継続開催を通して職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識向上を図り、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に行っていく。

（文責 諸岡 暁）

■防火管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)
副委員長	杉沢 利次 (事務部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	大石 悦子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	渡辺 野利江 (地域連携室)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
委員	武吉 勇喜 (警備室)	事務局	仲澤 実加 (病院総務課)

2 開催回数

2回 (7月、11月)

3 平成29年度の取組実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回は7月10日に実施した。5B病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消防設備の説明、はしご車を用いた病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

第2回は11月16日に実施した。第1回と同様の病棟避難訓練を7A病棟で行い、業者による消防設備の説明を受けた。その後、救助袋を用いた別館病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

4 来年度の課題

平成30年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

(文責 諸岡 暁)

■虐待防止委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	藤井 常宏 (血液内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 亮平 (小児科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	北島 美鈴 (外来A)
委員	小野田智恵子 (3 B病棟)	委員	東川 真理 (4 B病棟)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	江村 宏子 (医事課 (地域連携室))	委員	遠藤 卓馬 (医事課 (地域連携室))
事務局	岩垣 哲也 (医事課 (地域連携室))		

2 開催回数

発生時随時開催

3 平成 29 年度の取組実績

児童虐待対応マニュアルに則り、虐待疑いを含めたケースへの速やかな対応を実施した。その結果、児童相談所への早期通告が実施できた。

今後も引き続き、院内への周知と発生時の迅速な対応に取り組んでいく。

また、児童虐待対応マニュアルをベースに、高齢者や障害者への虐待対応マニュアル及び DV 対応マニュアルの整備に取り組んでいく。

4 来年度の課題

- ・ 高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成と DV 対応マニュアルの作成
- ・ 職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催

(文責 諸岡 暁)

■臨床研修センター

1 設置目的

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する。（平成 27 年 1 月 1 日設置）

2 役割

臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わり、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

3 組織

役 職	氏 名	役 職	氏 名
センター長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副センター長	梶本 徹也 (外科)
指導主任	河野 優 (神経内科)	指導主任	良元 和久 (手術管理科・外科)
臨床研修医	遠藤 憲彦	臨床研修医	吉田 和博
臨床研修医	大原 佑生	事務局	病院総務課

4 平成 29 年度の取組実績

- (1) 初期臨床研修医オリエンテーションの実施
- (2) 初期臨床研修医に対する面談の実施、ローテーションの調整
- (3) ウェブサイトの検討
- (4) 臨床研修案内の作成
- (5) 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣（3名）
- (6) 研修の企画及び実施
 - スキルアップ研修（初期・後期臨床研修医対象）等
- (7) 医学生に対する合同説明会参加
- (8) 臨床研修センター会議開催（2回）
- (9) 平成 29 年度 臨床研修プログラムの実例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	必修 内科					選択必修 麻酔科		選択必修 外科		選択 放射線科	必修 救急	
2年	選択 整形外科	選択 泌尿器科	選択必修 外科	必修 救急	必修 内科	必修 地域医療	選択 心外科	選択必修 小児科	選択必修 産婦人科	選択必修 外科		

（文責 笠井 健司）

■富士市透析防災ネットワーク

会長の笠井副院長が中心となり平成 22 年に発足。医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

1 組織

会 長 笠井健司(富士市立中央病院副院長兼腎臓内科部長)

議 長 東名富士クリニック

副議長 富士第一クリニック、富士市立中央病院

(参加透析施設)

加藤クリニック、共立蒲原総合病院、新富士病院、聖隷富士病院、

東名富士クリニック、富士市立中央病院、富士第一クリニック (五十音順)

2 開催回数

日	時	場 所	内 容
H29. 6. 1	19:00	東名富士クリニック	第 1 回実務者会議
H29. 6. 22	18:30	東名富士クリニック	第 2 回実務者会議
H29. 8. 3	19:00	富士第一クリニック	透析機器研修
H29. 8. 31	18:30	中央病院	第 3 回実務者会議
H29. 10. 14	19:00	富士市防災庁舎	富士市防災ネットワーク講演会
H30. 2. 1	18:30	中央病院	第 4 回実務者会議
H30. 3. 9	19:00	中央病院	施設代表者会議

3 平成 29 年度の取組実績

○MCA 無線使用講習会の開催【平成 29 年 6 月 22 日 (木) 東名富士クリニック】

前年度、各施設に配備した MCA 無線機の使用方法等について講習会を開催した。

○透析機器研修の開催【平成 29 年 8 月 3 日 (木) 富士第一クリニック】

参加者 50 名

○富士市透析防災講演会の開催【平成 29 年 10 月 14 日 (木) 市消防庁舎】

参加者 140 名

「災害時の食事について」 (富士市立中央病院 管理栄養士 小俣 朋子)

「2017 年版災害を乗り切るために知っておきたいこと」

(富士市透析防災ネットワーク会長 笠井健司)

4 来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行う。また、第 2 種拠点透析施設を中心に透析機器研修を行うとともに、情報伝達訓練を実施する。

(文責 笠井 健司)

■利益相反（COI）委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	杉沢 利次（事務部長）	事務局	深澤 公保（病院総務課）

2 開催回数

1回（迅速審査のみ）

3 平成 29 年度の実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成 27 年 4 月 1 日に設置した。

平成 29 年度は、迅速による審査を 1 回行った。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 諸岡 暁）

■NICU運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	秋山 直枝 (小児科)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	松岡 諒 (小児科)	副委員長	森本 康江 (4 B病棟)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	鈴木 貴之 (小児科)
委員	鈴木 亮平 (小児科)	委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)
委員	大井 洋子 (4 B病棟)	委員	滝澤 佐織 (4 A病棟)
事務局	寺田 和子 (医事課)	事務局	川本 悦子 (医事課)

2 開催回数

なし (必要時開催)

3 平成 29 年度の実績

NICU 運営委員会は、NICU の円滑な管理・運営を図るため、平成 27 年 5 月に設置された。

平成 29 年度は、委員会を開催すべき問題等はなかった。

4. 来年度の課題

周産期カンファレンスで問題となった点や NICU 運営の問題点発生時に、必要に応じて開催する。

(文責 秋山 直枝)

■地域がん診療病院運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	杉沢 利次 (事務部長)
委員	後藤 博一 (診療部長)	委員	藤井 常宏 (血液内科)
委員	梶本 徹也 (外科)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	良元 和久 (手術管理科・外科)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	落合 敏明 (薬剤科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	事務局	地域連携室

2 開催回数

随時 (通年での取り組み)

3 平成 29 年度の取組実績

「地域がん診療病院」継続指定申請を行い、承認を得た。今後も機能維持と充実について検討実践していく必要がある。

グループ指定先である静岡県立静岡がんセンターとの交流や連携の強化について院内への周知と協力依頼を行い、静岡がんセンターでのキャンサーボードに産婦人科医師を中心に参加した。また、緩和ケア地域連携カンファレンスには毎月当院緩和ケア委員会が参加させていただき、交流を深めることに努めた。

4 来年度の課題

- ・ 自院キャンサーボードの充実 (多職種参加型キャンサーボードの実施)
- ・ 自院での緩和ケア研修の開催を検討し、緩和ケア研修修了者の増を図る。
- ・ 地域の方々へのがん教育の実施

(文責 鈴木 康之)

■リハビリテーション運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	加藤 努（整形外科）	副委員長	野田 靖人（脳神経外科）
副委員長	河野 優（神経内科）	委員	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	西村 礼司（形成外科）	委員	野澤 里美（3C病棟）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	佐藤 理絵（医事課（地域連携室））
委員	岡本 功（医事課）	委員	中村 公美（リハビリテーション科）
事務局	リハビリテーション科		

2 開催回数

2回開催

3 平成29年度の取組実績

- ・第1回では、「非常勤のリハビリ専門医配置に伴う回診・診察等の運用の見直し」「適時調査に向けたリハビリに伴う課題」等についての検討を行った。
- ・第2回では、「病院機能評価におけるリハビリの課題及び対応策」「平成30年度診療報酬改定におけるリハビリ部門の影響」「ハイリスク患者のリハビリ介入に伴う同意書の運用」等についての検討を行った。

4 来年度の課題

平成30年度に大幅な診療報酬改訂が予想されるために、それに対する検討が必要になると思われる。

リハビリ専門医の常勤配置が不可欠であるため、配置実現に向け働きかけていく。

（文責 加藤 努）

■医療機器等長期整備計画検討委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	後藤 博一（泌尿器科）
委員	井出 宣孝（中央放射線科）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	中川 貴裕（病院総務課）
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

2 開催回数

0回

3 平成 29 年度の実績

各部門の要望を盛り込んだ機器更新リストの精度を高めるため、ヒアリングを実施した。

4 来年度の課題

新病院建設を念頭に、長期の医療機器整備の効率的運用及び管理について検討を行うため、主要医療機器整備リストを作成し、各部門、各科との意見調整の上、優先順位付けし、整備計画を策定する。

（文責 大沼 幹雄）

■新病院建設検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）
委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	後藤 博一（診療部部長兼感染対策室長）	委員	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	田中 稔（医療安全対策室長）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	玉舟 正弥（病院経営課）		

2 開催回数

9回（毎月第1金曜日）

3 平成29年度の取組実績

老朽化が進み、あと10年程度で建築物の耐用年数を迎える当院の建替えの検討を行うため、平成29年度に委員会を設置した。

平成29年度は、建替えについて病院としての意見をまとめ、検討報告書を市長へ提出した。

4 来年度の課題

新病院の建設に向け、庁内を横断的に組織する（仮称）新病院庁内建設検討委員会を設置し、検討を進めていく。

（文責 柏木 秀幸）

■経営改善チーム

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	阪本 宏志（循環器内科）	委員	佐伯 千里（消化器内科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	寺田 和子（医事課）	委員	島田 英介（医事課）
委員	木内 啓人（病院経営課）	事務局	木内 啓人（病院経営課）

2 開催回数

10回

3 平成 29 年度の実績

（1）病床利用率の安定化

毎月、在院患者病床利用率を病棟別・診療科別に算出し、病床利用状況を確認した。冬場の病床利用率上昇に伴う救急患者受入れ停止を回避するため、産科病棟の空床利用を院長に提言した。

（2）DPCデータを用いた経営分析

①薬剤管理指導料算定率の向上

持参薬鑑別業務を算定に結びつけるよう薬剤科に要請するとともに、医師の服薬指導依頼がスムーズに行えるよう、電子カルテ上のオーダー画面の見直しを提案した。薬剤科の取組により、算定件数を2倍近く増加させることができた。

②退院支援加算算定率向上について

担当者による算定から病棟全体で取り組む形に変更した。また、退院支援計画書の作成だけでなく、記録やカンファレンスについても漏れがないようチェックするよう意識付けを強くした。その結果、算定件数を3倍近く増加させることができた。

4 来年度の課題

既存の所属や委員会の枠を越えた課題について、経営改善の観点から院長に提言すべく検討を行っていく。特に、収益増加の方策につながる課題を拾い上げていく。

（文責 後藤 博一）

■医療機器等導入機種選定委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	井出 宣孝（中央放射線科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）		
事務局	佐山 侑希（病院総務課）		

2 開催回数

1回

3 平成 29 年度の取組実績

病院事業に資する医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行うことを目的に、医療機器導入機種選定委員会を設置した。以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の能力、規格、機能、仕様等を審査した。

- ・一般撮影装置の更新

4 来年度の課題

平成 30 年度も医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行い、適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責 柏木 秀幸）

■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	井出 正俊（歯科口腔外科副部長）
副委員長	伊藤 すみ子（看護部長室）	委員	13名

■終末期医療対策委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	伊藤 すみ子（看護部長室）
委員	6名		

■内科専門研修プログラム管理委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	13名		